

学校要覧

2025

NATIONAL INSTITUTE of TECHNOLOGY, OKINAWA COLLEGE
College Handbook

本科

- 機械システム工学科
- 情報通信システム工学科
- メディア情報工学科
- 生物資源工学科

専攻科

- 創造システム工学専攻



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

沖縄で学ぶ 沖縄から世界へ 咲かせよう未来 最南の地から最先端へ



目次

挨拶 沖縄工業高等専門学校 校長 鈴木康司	1	学生	31
沿革	2	◆学生定員・現員	31
高等専門学校の概要	3	◆入学志願者及び入学者	31
組織	4	◆高等学校等就学支援金制度	32
◆会議・委員会	4	◆高等学校等修学支援事業費補助金 (高校生等臨時支援)制度	32
◆事務部連絡先	4	◆奨学生	33
◆組織図	5	◆主な学費	33
役職員一覧	6	◆高等教育の修学支援新制度	33
◆教育職	6	◆令和7年3月卒業者の進路状況	34
◆事務職	6	◆令和7年3月修了者の進路状況	35
◆技術職	6	卒業生の活躍	35
◆教職員数	6	学生寮	36
◆歴代校長	7	図書館	37
◆名誉教授	7	技術支援室	38
教育理念・目的・教育目標	8	夢工場	39
三つの方針	10	多文化共生・国際交流推進本部	40
本科	16	留学生のコメント	41
■機械システム工学科	16	地域連携研究推進センター	42
■情報通信システム工学科	18	産業界との連携	43
■メディア情報工学科	20	キャリア教育センター	43
■生物資源工学科	22	学生相談・支援室	44
■基盤教育科	24	情報処理センター	44
専攻科	26	学生会	45
■創造システム工学専攻	26	コンテスト関係主要実績	46
特色のある教育	28	ICT委員会の活躍	47
■観光・地域共生デザインコース	28	女性教員の活躍	48
■航空技術者プログラム	29	美ら海から学ぶ未来のリーダー養成塾	49
■IoT教育事業	30	沖縄高専みらい創造資金	49
		収支報告・外部資金	50
		建物配置図・土地・建物	51

校章の由来



沖縄高専の位置する「やんばる（沖縄本島北部）の深き緑」と「青き豊かな海」を表現し、周囲を取り囲む円で「沖縄の青い空」を表している。



挨拶

独立行政法人 国立高等専門学校機構
 沖縄工業高等専門学校
 校長 鈴木康司

「沖縄で学ぶ 沖縄から世界へ 咲かせよう未来 最南の地から最先端へ」

沖縄高専は、全国に51校ある国立高等専門学校のひとつで、平成16年（2004年）に最も新しい国立高専として、自然豊かな名護市辺野古の地に開校しました。開校時から地域の特性を考慮し、それぞれ入学定員40名の機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の4つの専門学科に加えて、共通の教育を担当する基盤教育科で構成されています。平成21年（2009）には、5年間のこれら本科の上に修学期間2年の専攻科創造システム工学専攻が設置され、教育の高度化を推進してきました。専攻科課程修了後は大学の学士（工学）の学位を取得することができます。

卒業後の進路につきましては、20倍を超える求人を受け、就職率はほぼ100%となっています。また本科卒業後に、4年制大学の3年次に編入する学生や、本校専攻科に入学する学生など約3分の1が進学しております。

日本で生み出されたこの中学校卒業後の15歳からの5年間あるいは7年間の一貫した専門教育を行う高等教育機関は、国際的にみてもユニークで、独創的な高専教育モデルを導入する国々が現れております。その優れた教育効果の実績から、海外では「KOSEN」という言葉で認識され、沖縄高専でも高専機構の指示のもと、教員を現地に派遣して教員への指導・研修や学生への教育を行っています。特に、タイに五年一貫教育のKOSENが2校設置され、図書館や吹き抜ける校舎等は沖縄高専をモデルにした設計が採用されています。

創設20年を超えて、輩出する卒業生・専攻科修了生の合計はまもなく3千人に届きます。彼ら卒業生は、沖縄県はもとより日本全国、世界各地に送り出されて社会から高い評価を得ており、わが国の経済発展を持続的に支える人材として活躍をしています。

多くの産業活動、研究活動が世界規模で展開される今、新たな技術の発展、研究の展開には地球規模で未来を考えなくては立ち行かないという考え方が必要となってきています。この社会的要請に対しては、技術や研究に関わる人材としてグローバルな感覚を持った技術者・研究者が求められているのです。

21世紀になってもまだ解決ができない数多くの課題に、このままでは人類が安定して地球で暮らし続けることができなくなる心配があります。世界中の人々が話し合い課題を整理し解決方法「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」を推進していくことが必須となりました。また Society 5.0 に代表される産業構造変化、デジタルトランスフォーメーションという新たな考え方や技術も利用して、社会の要請を受けて柔軟に変化していく必要があります。ここには「創造性のある実践的技術者の育成」を役割とした高専生が活躍できる場があります。そのための実験や実習を重視した教育プログラム、早期教育の利点を活かしたものづくり実践教育の実施、問題解決型グループ学習（PBL）の積極的な導入など、常に時代の先端を行く教育の実現を目指しています。更に本校独自の取り組みとして、航空技術者プログラム、ドローンや水中ロボットの開発、沖縄特産の生物資源を利用した健康食品や医薬品の開発などに加えて、観光・地域共生デザインコースを設けて新しい付加価値を創造できる人材育成を実施しています。

本校は「沖縄で学ぶ 沖縄から世界へ 咲かせよう未来 最南の地から最先端へ」をキャッチコピーとし、実践的で創造的な技術者の育成に向かって、地域とともに歩む信頼される学校を目指しています。今後も本校の発展に、より一層ご支援くださいますようお願い申し上げます。

沿革

沖縄工業高等専門学校は、沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受けて、平成14年4月10日に「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成14年法律第23号）」の公布により、平成14年10月に開学しました。平成16年1月28日の1期工事竣工を経て、同年4月10日に第1回入学式を挙行し、175名の第1期生が入学しました。

沿革の年譜

平成9年（1997）

- 1月22日
沖縄政策協議会プロジェクトチーム現地会合において、沖縄県側から国立工業高等専門学校の誘致について要請

平成11年（1999）

- 8月11日
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校の早期設置に関する要望書の提出
- 9月27日
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校設置候補地について名護市辺野古地区を推薦し要請
- 12月28日
「国立高等専門学校設置の確実な実現」が盛り込まれた「沖縄県北部地域の振興に関する方針」等が閣議決定

平成12年（2000）

- 3月1日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室を琉球大学に設置
- 3月17日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査委員会を設置
- 4月1日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会を設置
- 8月10日
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（中間まとめ）」を取りまとめ公表

平成13年（2001）

- 4月20日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教育方法・課程等部会及び施設・設備等部会を設置
- 7月27日
国立高等専門学校（沖縄）の設置に必要な用地の取得等について依頼

平成14年（2002）

- 1月24日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教員選考部会を設置
- 4月10日
国立学校設置法改正
- 6月5日
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（最終まとめ）」を取りまとめ公表
- 10月1日
沖縄工業高等専門学校開学（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）初代校長に糸村昌祐が就任
- 10月24日
沖縄工業高等専門学校開学記念シンポジウムの開催

平成15年（2003）

- 2月27日
沖縄工業高等専門学校起工式の挙行
- 3月31日
事務室をNTT名護別館（名護市大東）に移転

平成16年（2004）

- 1月10日
推薦による選抜試験の実施
- 1月28日
第1期工事竣工
- 2月22日
学力検査による選抜試験の実施
- 3月10日
名護市民会館にて第1期生に対する入学説明会を開催
- 3月22日
事務室を新校舎（辺野古）に移転

- 4月10日
第1回入学式を挙行、175名が入学
- 4月21日
沖縄工業高等専門学校産学連携協力会を発足
- 8月2日
学生会発足
- 9月30日
第Ⅱ期工事竣工
- 10月31日
沖縄工業高等専門学校後援会設立総会開催
- 11月5日
沖縄工業高等専門学校竣工記念式典を挙行

平成17年（2005）

- 2月2日
レリーフ除幕式を挙行

平成21年（2009）

- 3月21日
第1回卒業式を挙行、147名が卒業
- 4月1日
専攻科（創造システム工学専攻）を設置
- 4月4日
第1回専攻科入学式を挙行、28名が入学

平成22年（2010）

- 4月1日
第2代校長に伊東繁が就任

平成23年（2011）

- 3月19日
第1回専攻科修了式を挙行、27名が修了
- 3月25日
専攻科棟竣工

平成25年（2013）

- 4月3日
第10回入学式を挙行、166名が入学
- 9月21日
創立10周年記念式典を挙行

平成27年（2015）

- 4月1日
第3代校長に安藤安則が就任
- 4月1日
航空技術者プログラム設置

令和2年（2020）

- 4月1日
第4代校長に伊原博隆が就任

令和4年（2022）

- 4月1日
第5代校長に佐藤貴哉が就任

令和5年（2023）

- 4月1日
観光・地域共生デザインコース設置
- 9月16日
創立20周年記念式典を挙行

令和7年（2025）

- 4月1日
第6代校長に鈴木康司が就任

高等専門学校概要

高等専門学校は、昭和30年代の経済成長期に、科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者が必要とされたことを背景として、経済産業界からの強い要請により、昭和37年度に創設されました。

現在では、全国に国立51校、公立3校、私立4校の合計58校の高等専門学校があります。

なお、平成16年4月1日より、当時の国立55校は、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する国立の高等専門学校となっています。

高等専門学校は、中学校卒業生を受け入れ、高等学校3年間と大学の2年間に相当する5年間の一貫教育を行う高等教育機関です。

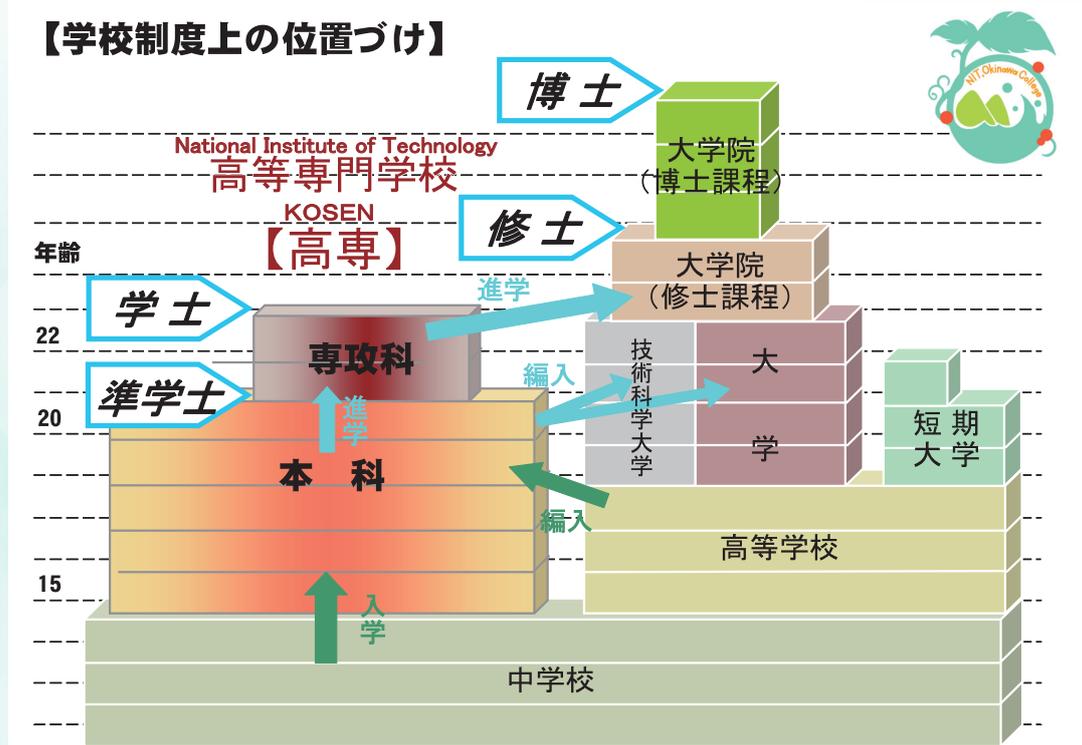
理論的な基礎とその上に立った実験・実習・演習を重視した実践的な技術教育や少人数クラス編制でのきめ細かな教育による創造性あふれる実践的技術者の養成には、経済産業界から高い評価を得ています。

高等専門学校を卒業すると、「準学士」の称号が与えられます。

また、卒業後の進路は、企業や官公庁等への就職（就職率は例年90%以上）、大学3年次への編入学、専攻科への進学（大学評価・学位授与機構の審査に合格すると「学士」の学位が与えられます。）と多岐にわたっています。

高等専門学校制度の概要

【学校制度上の位置づけ】



- ・高校卒業生は、高専4年次への編入資格があります。
- ・高専卒業生は、大学3年次への編入資格があります。
- ・高専卒業生は高専の専攻科に進学する資格があります。
- ・専攻科では最新の科学知識と技術を更に深めたい学生のため、2年間のより高度な技術者教育を行います。修了して「学士」を得た者は大学院への入学資格があります。

組織

会議・委員会

◆ 運営会議

◆ 広報戦略会議

◆ いじめ対策委員会

◆ 総務委員会

◆ 図書館運営委員会

◆ 教務委員会

◆ 入学者選抜実施委員会

◆ FD・SD 実施委員会

◆ 学生委員会

◆ 学生寮委員会

◆ 安全衛生委員会

◆ 専攻科運営委員会

◆ 航空人材育成委員会

◆ 評価対応委員会

◆ 技術支援室運営委員会

◆ 知的財産委員会

◆ 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会

◆ 動物実験委員会

◆ ヒト研究倫理審査委員会

◆ 男女共同参画推進委員会

◆ キャンパス・ハラスメント防止委員会

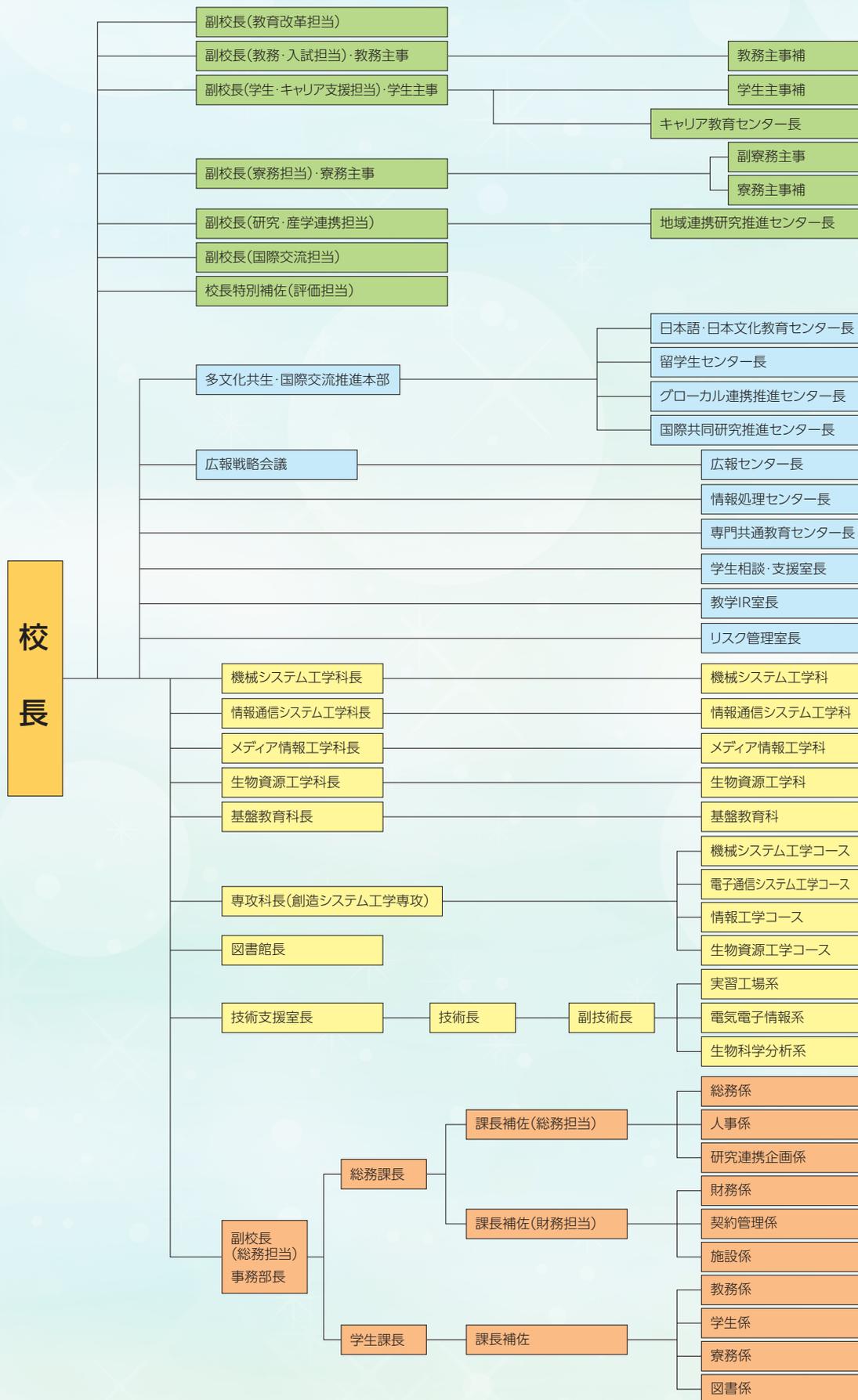
◆ 職員レクリエーション委員会

◆ 情報セキュリティ管理委員会

事務部連絡先

係	電話番号	メールアドレス
総務課 総務係	0980-55-4003	ssoumu@okinawa-ct.ac.jp
人事係	0980-55-4006	sjinji@okinawa-ct.ac.jp
研究連携企画係	0980-55-4070	skrenkei@okinawa-ct.ac.jp
財務係	0980-55-4014	szaimu@okinawa-ct.ac.jp
契約管理係	0980-55-4020	skkanri@okinawa-ct.ac.jp
施設係	0980-55-4023	ssisetu@okinawa-ct.ac.jp
学生課 教務係	0980-55-4028	gkyoumu@okinawa-ct.ac.jp
学生係	0980-55-4032	ggakusei@okinawa-ct.ac.jp
寮務係	0980-55-4039	gryoumu@okinawa-ct.ac.jp
図書係	0980-55-4037	stosyo@okinawa-ct.ac.jp

組織図



役職員一覽

教育職

校長	鈴木 康司
副校長（教育改革担当）	眞喜志 治
副校長（教務・入試担当） 教務主事	山田 親稔
副校長（学生・キャリア支援担当） 学生主事	神里 志穂子
副校長（寮務担当） 寮務主事	安里 健太郎
副校長（研究・産学連携担当）	谷藤 正一
副校長（国際交流担当）	田中 博
副校長（総務担当） 事務部長	亀井 耕治
校長特別補佐（評価担当）	金城 伊智子

機械システム工学科長	武村 史朗
情報通信システム工学科長	中平 勝也
メディア情報工学科長	玉城 龍洋
生物資源工学科長	濱田 泰輔
基盤教育科長	山田 親稔
専攻科長	谷藤 正一
図書館長	澤井 万七美
技術支援室長	亀井 耕治
広報センター長	仲間 祐貴

リスク管理室長	亀井 耕治
学生相談・支援室長	比嘉 吉一
教学IR室長	眞喜志 治
専門共通教育センター長	眞喜志 治
キャリア教育センター長	亀濱 博紀
地域連携研究推進センター長	赤嶺 宗子
多文化共生・国際交流推進本部長	田中 博
日本語・日本文化教育センター長	玉城 梓
留学生センター長	吉居 啓輔
グローバル連携推進センター長	沖田 紀子
国際共同研究推進センター長	磯村 尚子
情報処理センター長	佐藤 尚

事務職

総務課長	齋藤 洋史
学生課長	瀬戸口 修郎

技術職

技術長・技術主査	渡邊 謙太
副技術長・技術専門員	藏屋 英介
技術専門員	具志 孝
技術主査（実習工場系） 技術専門職員	大嶺 幸正

教職員数

令和7年5月1日現在

	校長	教授	准教授	講師	助教	教員計	事務職員	技術職員	看護師	合計
現員	1	26	15	10	2	54	31	10	1	96

歴代校長

	氏名	在任期間
初代校長	いとむら 糸村 昌祐	平成14年10月1日～平成22年3月31日
2代校長	いとう 伊東 繁	平成22年4月1日～平成27年3月31日
3代校長	あんどう やすのり 安藤 安則	平成27年4月1日～令和2年3月31日
4代校長	いはら ひろたか 伊原 博隆	令和2年4月1日～令和4年3月31日
5代校長	さとう たか や 佐藤 貴哉	令和4年4月1日～令和7年3月31日
6代校長	すずき こうじ 鈴木 康司	令和7年4月1日～

名誉教授

元職	氏名	授与年月日	元職	氏名	授与年月日
校長	糸村 昌祐	平成26年9月	教授	宮田 恵守	令和元年5月
教授	松栄 準治	平成26年9月	教授	網谷 厚子	令和元年5月
教授	真鍋 幸男	平成26年9月	校長	安藤 安則	令和2年4月
教授	高木 茂	平成26年9月	教授	姉崎 隆	令和2年4月
校長	伊東 繁	平成27年5月	教授	三枝 隆裕	令和2年4月
教授	角田 正豊	平成29年5月	教授	正木 忠勝	令和2年4月
教授	鈴木 龍司	平成29年5月	校長	伊原 博隆	令和4年4月
教授	新川 智清	平成29年5月	教授	星野 恵里子	令和6年4月
教授	知念 幸勇	平成29年5月	校長	佐藤 貴哉	令和7年4月

教育理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

目的

教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。

教育目標

本科

本科教育目標

- (1) 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
- (2) 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
- (3) 専門の基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
- (4) 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

<各学科の人材養成上の目的及び教育目標>

【機械システム工学科】

人材養成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点での「モノづくり」を支える実践力の高い技術者を育成する。

学生に修得させるべき能力(教育目標)

- ① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
- ② 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
- ③ 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
- ④ 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

【情報通信システム工学科】

人材養成上の目的

環境と技術の調和と社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を修得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

学生に修得させるべき能力(教育目標)

- ① 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
- ② コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
- ③ 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要な通信工学の情報セキュリティなどの基本技術力
- ④ 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

【メディア情報工学科】

人材養成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

学生に修得させるべき能力（教育目標）

- ① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
- ② コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
- ③ ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
- ④ 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

【生物資源工学科】

人材養成上の目的

環境に配慮し、生物資源の利用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、産業界の要請に対応できる実践的・創造的技術者を育成する。

学生に修得させるべき能力（教育目標）

- ① 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
- ② 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
- ③ 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
- ④ 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

専攻科

専攻科教育目標

- (1) 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
- (2) 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
- (3) 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
- (4) 地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する

三つの方針

本科

<ディプロマポリシー>

本科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

【全学科共通】

1. 理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力、及び、各専門分野の基礎的な知識と技術を持ち、それらを実践に応用することができる。
2. 様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力、及び、技術者にふさわしい倫理観に基づき、その専門知識を社会のために役立てることができる。
3. 自らの資質と現在の能力を見極め、それらを磨き高める努力を主体的に続けることができる。

<カリキュラムポリシー>

本科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

【全学科共通】

1. 理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力を身につけ、各専門分野の基礎的な知識と技術を修得、応用する科目を配置する。
2. 様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力と、技術者にふさわしい倫理観を修得する科目を配置する。
3. 継続的に学習していく能力を養う科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。

S (100～90点) 秀 A (89～80点) 優 B (79～70点) 良 C (69～60点) 可
F (59～0点) 不可

<アドミッションポリシー>

本科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

【全学科共通】

1. 理数系分野に興味があり、それらの科目において基礎的な学力を有している人
2. 責任感と忍耐力を備え、様々な人々との主体的な協働と学びを通じてコミュニケーション能力を高めることができる人
3. 規則正しい生活と自発的な学習ができる人

入学者の選抜は、以下の4つの方法で行う。

【推薦による選抜】

本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

【学力検査による選抜】

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

【帰国生徒特別選別】

本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

【編入学者選抜】

本校への関心があり、高等学校等を卒業後、技術者としての素養を身につけたいと強く希望する志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査及び面接により選抜を行う。

機械システム工学科 の三つの方針

<ディプロマポリシー>

機械システム工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1. 機械工学分野の知識を活用し、課題解決に向けて行動できる。
2. 他者と協働し、倫理観・責任感を持って課題に取り組むことができる。
3. 機械工学分野の技術を活用し、課題解決に向けて行動できる。

<カリキュラムポリシー>

機械システム工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 機械システムの知識を修得する、物理と数学を基礎としたいわゆる四力学と、これらを基盤とした基礎専門科目を配置する。
2. 課題解決能力を育成する、課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する卒業研究、他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する科目を配置する。
3. 機械システムの技術を修得する、実践的な機械システム工学の実験や実習、設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目を配置する。

<アドミッションポリシー>

機械システム工学科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

1. 機械やモノづくりに興味のある人
2. 機械に関する専門知識と技術を修得し、モノづくりによる社会に貢献したい人
3. 機械の動く仕組みや構造を理解したい人

情報通信システム工学科 の三つの方針

<ディプロマポリシー>

情報通信システム工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1. 情報通信工学の基礎的知識を活用し、それらを応用することができる。
2. 論理的思考力と技術者としての倫理観を体得し、課題に対してグローバルな視点から、解決に向けてコミュニケーションを図ることができる。
3. 課題に対して主体的かつ計画的に物事を進めることができ、課題解決に導くことができる。

<カリキュラムポリシー>

情報通信システム工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 情報通信工学の基礎的な知識を活用し、それらを応用する科目を配置する。
2. 論理的思考力や発表と討議の能力を育成する科目として、電気電子回路・情報・通信工学に関する実験・実習・演習科目を配置する。
3. 課題に対して自主的かつ計画的に物事を進め、課題解決に導く能力を滋養するために、実験、実習、演習科目を体系的に配置する。

<アドミッションポリシー>

情報通信システム工学科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

1. 新しい電子機器やソフトウェアに興味のある人
2. 情報や通信の技術によって社会に貢献したい人
3. 情報や通信の技術を身につける意欲のある人

メディア情報工学科 の三つの方針

<ディプロマポリシー>

メディア情報工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1. 情報工学やコンテンツ制作に関する基礎的知識を修得し、それらを応用することができる。
2. 倫理観や課題解決能力、コミュニケーション力を修得しており、情報工学とコンテンツ制作に関する専門知識を社会に役立てることができる。
3. 情報工学とコンテンツ制作における課題を解決するために継続的に自己研鑽できる。

<カリキュラムポリシー>

メディア情報工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. ソフトウェアやコンピュータネットワークなどの情報工学やコンテンツ制作に関する科目を配置する。
2. ソフトウェア開発やネットワーク構築、コンテンツ制作を通して、共同で問題解決に取り組む姿勢とコミュニケーション力を修得する科目を配置する。
3. 課題に対して自主的かつ計画的に物事を進め、課題解決に導く能力を滋養するために、ソフトウェア開発やネットワーク構築、コンテンツ制作などの実験・実習科目を体系的に配置する。

<アドミッションポリシー>

メディア情報工学科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような人材を求める。

1. ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作技術に興味のある人
2. ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作の技術によって社会に貢献したい人
3. ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作の技術を自主的、継続的に学べる人

生物資源工学科 の三つの方針

<ディプロマポリシー>

生物資源工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1. バイオテクノロジーの基礎的な知識と技術を身につけ、生物資源を創造的且つ実践的な研究開発につなげることができる。
2. 技術者として倫理観を体得し、お互いの考えを理解・共有するためのコミュニケーション力を備え、互いに協調・協力して解決すべき課題に取り組むことができる。
3. 常に新しい情報や専門知識の収集・獲得する姿勢を持ち続け、それらに基づいて考え、仕事に応用・発展させることができる。

<カリキュラムポリシー>

生物資源工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 生物化学工学群及び環境・微生物学群、食品化学工学群から構成される生物工学の基礎知識と技術を習得する科目群と、それらを応用する科目群を配置する。
2. 生物工学の技術者として倫理観・課題解決能力・コミュニケーション力を育成する全学科共通専門科目及び専門実験・実習科目を配置する。
3. 実験・演習を通して継続的に学習する力を養う共通群科目を配置する。

<アドミッションポリシー>

生物資源工学科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

1. バイオテクノロジーに興味のある人
2. 生物、化学、環境、食品などに関する知識と技術によって社会に貢献したい人
3. 生物資源を様々な角度から理解し、知識と技術を身につける意欲のある人

専攻科

<ディプロマポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに掲げた能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

〔修得する能力〕

1. 深い専門知識と幅広い関連分野の知識を持ち、これらを活用することができる。
2. 倫理観を持ち、他者と協働することができ、論理的に物事を考え、表現することができる。
3. グローバルな視点で、多面的に物事を捉えることができる。

<カリキュラムポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに掲げた能力の育成を目的に、以下のカリキュラムを編成する。

1. 専攻科目の応用力、知識を融合・複合する力を身につける科目を配置する。
2. 他者と協働できるコミュニケーション能力を身につける科目を配置する。
3. グローバルな視点で物事を見る力を身につける科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。

S (100～90点) 秀 A (89～80点) 優 B (79～70点) 良 C (69～60点) 可
F (59～0点) 不可

<アドミッションポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、以下に掲げるような人材を求める。

1. 専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけ、複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人
2. 基礎的なコミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
3. 技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与することに意欲を持つ人

入学者の選抜は、以下の3つの方法で行う。

【推薦による選抜】

本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者（志願動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、提出書類に基づいて全ての要素を総合的に評価して選抜を行う。

【学力検査による選抜】

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、学力検査により選抜を行う。

【社会人特別選抜】

本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施する。そのため、面接（アドミッションポリシーに従う質問）及び専門分野における口頭試問により選抜を行う。

機械システム工学科

機械工学は、コンピュータ部品のようなマイクロな世界からロボット・自動車・航空宇宙まであらゆる産業のものづくりの中心となる重要な学問分野です。これら先端技術の各分野で多くの機械工学技術者が、設計・開発・研究・製造の分野で活躍しています。

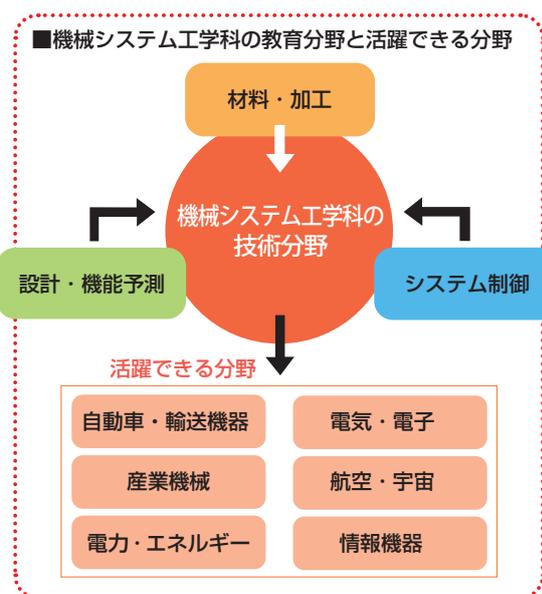
本学科では、ものづくりを支え、創造力の高い実践的技術者の育成を目指しています。本学科の教育課程は、従来からある機械工学の各分野を、機械力学・材料力学・熱工学・流体工学を中心とした基礎科目群、設計を中心とした機械設計群、制御とメカトロニクスを中心としたシステム制御群、実習・実験を中心とした共通群に再構成し、ものの設計・生産・開発・創造に必要な知識と技術を統合した教育及び機器設計・実習・実験などの自己学習を重視した教育を行います。



機械システム工学実習Ⅱ（2年）



専攻科実験（専攻科2年）



■ 教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（工学）	安里 健太郎	専門分野：制御工学（古典制御・現代制御・ロボスト制御等）、ソフトコンピューティング（深層学習等） 1. 介護・看護に関する支援機器の研究開発 2. 知能化制御システムの研究開発 3. 論理的思考力を育成するSTEAM教材の開発 4. システムの低次元化に関する研究
教授	博士（工学）	武村 史朗	専門分野：ロボティクス、制御工学 1. 海中ロボットに関する研究 2. ロボット技術を利用した地域課題への応用
教授	博士（工学）	比嘉 吉一	専門分野：材料力学、計算固体力学、マルチフィジックス 1. マルチスケール計算固体力学関連分野の研究 2. マルチフィジックス現象に関連した数値シミュレーションに関する研究
教授	博士（工学）	眞喜志 治	専門分野：熱工学 1. レーザ加工に伴う熱現象に関する研究 2. マイクロチャンネル内の気液二相流に関する研究
嘱託教授	博士（工学）	眞喜志 隆	専門分野：表面改質、機械材料 1. 金属材料の表面改質に関する研究 2. 表面改質と疲労強度に関する研究
教授	博士（工学）	山城 光	専門分野：熱工学、熱流体計測工学 1. 有機・無機水素貯蔵材料の研究 2. 炭素繊維触媒界面における有機液滴の熱化学的相互作用に関する研究 3. 膜沸騰蒸気膜の安定性と固液接触機構
准教授	博士（工学）	下嶋 賢	専門分野：加工学、計測工学 1. 機械システムの高精度化 2. 加工現象の解析
准教授	博士（工学）	津村 卓也	専門分野：溶接・接合、レーザ加工・プラズマ処理・表面処理 1. 摩擦発熱を利用した異種金属材料の固相接合法に関する研究 2. 各種熱源による金属材料の表面処理および付加製造に関する研究
准教授	博士（工学）	森澤 征一郎	専門分野：数値流体力学、航空力学、データマイニング、多目的最適化 1. 新形態将来旅客機の空力設計に関する研究 2. Roadble Aircraft の概念設計とその実現可能性の検討 3. データ探査や最適化の技術開発とその応用に関する研究
講師	博士（工学）	赤嶺 宗子	専門分野：材料工学・セラミックス材料・複合材料 1. Mie 理論に基づくふく射断熱材料の研究 2. セラミックス基複合材料の物性の解析 3. コンクリートのふく射熱制御に関する研究
講師	博士（工学）	比嘉 聖	専門分野：情報工学、ヒューマンインタフェース、知能ロボット 1. ヒトの意図推定手法に関する研究 2. 障がい者支援に向けた福祉支援機器の研究開発

■ 機械システム工学科 教育課程（令和7年度入学生）

授 業 科 目	単位数	区 分	学年別配当										備 考		
			1年		2年		3年		4年		5年				
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間			
全学科共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	通										
	創造演習	2	演習			2	通								
	産業創造セミナー	2	講義・演習			2	通								
	インターンシップ	3	実習						3	通					
	情報技術の基礎Ⅰ	2	講義	2	通										
	情報技術の基礎Ⅱ	2	講義	2	通										
	プログラミングⅠ	2	講義・演習	2	通										
	プログラミングⅡ	2	講義・演習	2	通										
基礎科目群	応用プログラミング	2	講義・演習			2	通								
	応用数学Ⅰ	2	講義					2	半						学修単位
	応用数学Ⅱ	2	講義							2	半				学修単位
	材料力学Ⅰ	2	講義・演習			2	半								学修単位
	材料力学Ⅱ	2	講義・演習			2	半								学修単位
	材料力学Ⅲ	2	講義・演習					2	半						学修単位
	流体力学Ⅰ	2	講義					2	半						学修単位
	流体力学Ⅱ	2	講義					2	半						学修単位
	機械力学Ⅰ	2	講義					2	半						学修単位
	機械力学Ⅱ	2	講義・演習					2	半						学修単位
	熱力学Ⅰ	2	講義・演習					2	半						学修単位
熱力学Ⅱ	2	講義・演習							2	半				学修単位	
機械設計群	機械製図学Ⅰ	1	講義・実習	1	半										
	機械製図学Ⅱ	1	講義・実習			1	半								
	機械設計学	1	講義・実習			1	半								
	総合構造設計	2	講義・実習					2	半						学修単位
	CAD・CAMⅠ	2	演習			2	通								
	CAD・CAMⅡ	2	演習					2	半						学修単位
	機械材料Ⅰ	1	講義			1	半								
	機械材料Ⅱ	1	講義			1	半								
	材料科学	2	講義					2	半						学修単位
伝熱工学	2	講義							2	半				学修単位	
システム制御群	ロボット制御概論	1	講義	1	半										
	電気・電子工学	2	講義・演習			2	通								
	制御工学	2	講義					2	半						学修単位
	メカトロニクス工学Ⅰ	2	講義							2	半				学修単位
	計測工学	2	講義							2	半				学修単位
共通群	機械システム工学実習Ⅰ	3	講義・実習	3	通										
	機械システム工学実習Ⅱ	4	講義・実習			4	通								
	機械システム工学実習Ⅲ	2	講義・実習			2	半								
	機械システム工学実験Ⅰ	4	実験					4	通						
	機械システム工学実験Ⅱ	2	実験							2	半				
	機械システム工学演習	2	講義・演習					2	半						学修単位
	卒業研究	8	実験							8	通				
修 得 単 位 計	90			11	12	16	31	20							
選 択	基礎科目群	応用物理	1	講義				1	半						
		化学Ⅱ	1	講義				1	半						
	機械設計群	CAE	1	講義							1	半			
		エネルギー工学	1	講義							1	半			
	システム制御群	メカトロニクス工学Ⅱ	1	講義							1	半			
		システム制御論	1	講義							1	半			
		知能制御論	1	講義					1	半					
	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可（最大5単位）
	開 設 単 位 計	12			1	1	1	4	5						
	修 得 単 位 計	0			0	0	0	0	0						
開 設 単 位 合 計	102			12	13	17	35	25							
修 得 単 位 合 計	90			11	12	16	31	20							

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。（詳細は別に定める）

情報通信システム工学科

タブレットPC、インターネット、スマートフォンや携帯端末などの情報通信技術の急速な進歩、普及は社会に大きな影響を与えています。この情報通信技術を支えているのが、コンピュータ、ネットワーク、通信、信号処理及び人工知能（AI）、制御、半導体集積回路などの技術を修得したハードウェア・ソフトウェアに精通した実践的創造的技術者です。

本学科では、情報通信分野で活躍できる実践的創造的技術者の育成を目指し、次の技術分野の基礎を学びます。

- (1) 基礎科目群（離散数学、電磁気学、情報通信工学実験など）
- (2) 情報通信工学群（信号処理、情報理論、通信工学など）
- (3) 電気・電子回路工学群（半導体工学、電気回路、電子回路演習など）
- (4) 計算機システム群（計算機工学、コンピュータアーキテクチャなど）
- (5) ソフトウェア群（応用プログラミング、OS、人工知能（AI）とミドルウェアなど）

情報通信分野における実践的創造的技術者の育成 (ハードウェア・ソフトウェアに精通した技術者を目指す)



情報通信工学実験の授業



計算機工学の授業



創造演習の授業



電波暗室での通信実験（専攻科）

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（工学）	神里 志穂子	専門分野：感性工学、運動計測、データ解析 1. 観察者のスキルと注視情報を考慮した舞踊動作相承システムの構築 2. 動作解析によるスキルの定量化と感性情報の抽出に関する研究
教授	博士（工学）	金城 伊智子	専門分野：意思決定、ファジィ解析、観光情報 1. 意思決定支援システムの構築 2. ファジィ理論を用いた観光情報システムに関する研究
教授	博士（工学）	高良 秀彦	専門分野：光通信、光計測 1. 光通信システムに関する研究 2. 光通信品質測定技術、レーザー光安全に関する研究
教授	博士（工学）	谷藤 正一	専門分野：マイクロ波・ミリ波工学、無線通信工学 1. 高周波 Si-CMOS RF デバイスの研究 2. 3D-SiP 技術を用いた小形・高密度 RF モジュールの研究 3. 水中可視光通信の研究
教授	博士（情報科学）	中平 勝也	専門分野：無線通信工学、情報工学 1. 衛星やドローンなどを用いた各種無線通信システムのアクセス制御に関する研究 2. ドローンやAIを利用した通信システムの社会実装に関する開発
教授	博士（工学）	山田 親稔	専門分野：計算機工学、論理設計、形式的設計検証 1. システム LSI 設計・機能検証に関する研究 2. LSI 設計教育に関する研究
教授	博士（工学）	藤井 知	専門分野：マイクロ波工学、電子デバイス 1. カーボンニュートラル社会の実現を目指したマイクロ波工学の研究 2. 量子コンピュータの基礎研究 3. 次世代半導体プロセス技術の研究
准教授	博士（工学）	亀濱 博紀	専門分野：半導体工学、電子集積回路 1. 集積回路設計に関する研究 2. センシングシステムの開発・評価
准教授	博士（工学）	比嘉 修	専門分野：電気電子工学、パルスパワー工学 1. 衝撃波応用技 2. 高電圧装置設計・開発、高速度カメラを用いた流体可視化技術
特命准教授	博士（工学）	范 一平	専門分野：情報工学 1. ファジィ理論による中国語漢字発音から日本語漢字音読みへの推測 2. Web顧客の購買履歴や販売データの分析
講師	博士（工学）	宮城 桂	専門分野：計算機工学、VLSI 設計 1. 省電力 VLSI の実現法に関する研究 2. ディペンダブル VLSI の実現法に関する研究

メディア情報工学科

物質、エネルギーと並んで、情報は人間活動にとって大切な要素です。私達は情報を音声、文字、画像など色々なメディア（媒体）で表現して人に伝えています。情報処理技術と通信技術の発展と融合のおかげで、情報のデジタル化を通して異なるメディアを統合的に扱うこと、そして、膨大な情報を世界規模で伝達共有することが可能になりました。本学科では、様々なメディア関連産業を支える技術者の育成をはかるため、以下の教育を行います。

- (1) 情報を音声、画像、CG など種々のメディアで表現し、コンピュータを用いてデジタル加工するコンテンツ制作教育
- (2) アルゴリズム、データ構造、プログラミング並びに構成や動作原理などマルチメディア情報を処理するコンピュータシステムに関する教育
- (3) インターネット、モバイル通信および情報セキュリティを含むネットワーク技術に関する教育



専門科目の授業風景



専門科目の授業風景

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
特任教授	修士（工学）	伊波 靖	専門分野：情報セキュリティ、音声言語処理 1. サーバをセキュアにするための要塞化に関する設定 2. セキュリティポリシー策定に関するアドバイス 3. 不正アクセス発生時におけるログ解析等のインシデントレスポンス
教授	博士（学術）	玉城 龍洋	専門分野：交通工学、社会科学、進化的計算、プログラミング教育 1. 交通流および交通ネットワークの解析 2. 歩行者行動モデルの開発 3. プログラミング教育手法の開発
教授	博士（工学）	タンスリヤボン スリヨン	専門分野：画像処理・認識・圧縮、デジタル信号処理 1. 高速画像処理・認識ソフトウェアの開発 2. 遠隔モニタリングのための映像圧縮及び通信方式の研究 3. ビデオセンシングによる防犯・防災システムの研究
教授	修士（工学）	與那嶺 尚弘	専門分野：計算機工学、工学教育、福祉工学 1. 失語症患者および発達障害児向け言語機能訓練支援システムの構築 2. 介護福祉士・保育士向けヒヤリハット防止教材作成支援システムの開発 3. ネットワークを用いた学習支援システムの開発
教授	博士（工学）	バイティガ ザカリ	専門分野：ロボット工学・画像処理・ゼータ関数 1. 複数のセンサーに基づくロボットの開発 2. GPSを用いた移動ロボットに関する研究 3. ロボットビジョンに関する研究 4. 解析関数の複数積
准教授	博士（工学）	金城 篤史	専門分野：情報工学、情報システム、ソフトウェア工学、情報ネットワーク、海洋音響学 1. 情報システムの構築・管理・運用に関する研究 2. 情報工学の農業や水産への応用 3. 複数センサーによるセンシング技術の開発に関する研究
准教授	博士（知識科学）	佐藤 尚	専門分野：複雑系、人工生命、人工知能、進化言語学、進化論的計算 1. 生命・認知・言語・社会・経済などの自律的に発展/進化する「複雑系」に関する構成論的研究 2. 複雑系における創発現象の解析
講師	博士（工学）	仲間 祐貴	専門分野：情報工学、ファシリティマネジメント 1. ネットワーク管理業務における情報可視化に関する研究 2. 3Dモデルを活用した戦略的な施設維持管理に関する研究 3. ビックデータの情報表現・利活用に関する研究
助教	修士（理学）	當間 栄作	専門分野：画像処理、画像解析、ソフトコンピューティング 1. 眼底画像解析システムの開発に関する研究 2. 眼底動画像からの動脈硬化診断に関する研究

生物資源工学科

沖縄工業高等専門学校の立地条件の特長の一つは、海洋性に恵まれた亜熱帯性気候です。本学科では、これら亜熱帯性資源をはじめとした生物資源の実践的利用ができ、かつ環境に配慮した資源再利用に対応できる人材の育成を目指します。そこで、以下の教育課程により教育・研究を行ないます。

専門分野の授業科目は（１）生物化学工学群、（２）環境・微生物学群、（３）食品化学工学群の３群を軸に編成されています。

- （１）生物化学工学群では、生物・化学系の授業科目により生命科学の基礎を充実します。さらにバイオテクノロジー系の授業科目により生物機能を物質生産に応用する実践的な能力を養います。
- （２）環境・微生物学群では、環境と微生物に関する知識の基礎と応用を学びます。その上で、技術者として環境に対してどのように配慮し、どのように行動するのか、基礎と実践的な手法を習得します。
- （３）食品化学工学群では、食品成分について、その化学的性質・生理活性・分析手法の基礎と応用を学びます。また、食品成分の知識を踏まえて、新規な食品の開発と産業規模の食品製造の実践的能力を養います。



体験授業（那覇市：産業支援センター）



研修旅行（神奈川県：ヤクルト湘南化粧品工場）



新入生集合（名護：沖縄高専）

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（医学）	池松 真也	専門分野：生化学、がんの生物学、診断薬開発、長寿研究 1. 天然物由来生理活性物質の評価系構築およびその物質を主体とした商品の開発 2. 新規な成長因子“ミッドカイン”の医薬分野への応用 3. 種々の標的タンパク質の抗体を利用した診断薬開発 4. パイオインフォマティクスを活用した腸内フローラ研究
教授	博士（理学）	磯村 尚子	専門分野：分子生態学、繁殖生態学 1. 海洋生物における繁殖様式と集団維持・進化の関係性の解明 2. 海洋生物における遺伝的集団構造の解明
教授	博士（学術）	伊東 昌章	専門分野：タンパク質工学、酵素化学 1. 昆虫無細胞タンパク質合成系の高度化に関する研究 2. シマヅグおよびシルクの機能性に関する研究 3. 有用酵素の機能解析、および応用に関する研究
嘱託教授	博士（学術）	平良 淳誠	専門分野：生物有機化学、生物資源化学、酸化ストレスの生命科学 1. 生物資源の探索と機能性機構解明に関する研究 2. 生物資源の薬用食品、薬用化粧品の利用に関する研究
教授	博士（理学）	田中 博	専門分野：食品製造学、微生物学 1. 食成分の機能性開発と新規な食素材の開発 2. 新規な乳酸菌の探索と食品への利用
教授	博士（工学）	濱田 泰輔	専門分野：物理化学、光化学、有機化学 1. 天然物色素などの化学反応を含む事項について、特に光と色が関わる事柄に関する事項
教授	博士（理学）	廣原 志保	専門分野：創薬化学、応用有機化学 1. 光化学がん医療薬の開発 2. 水の抗菌・抗藻剤の開発
特命准教授	博士（工学）	沖田 紀子	専門分野：微生物学、分子生物学 1. 海洋性ゴム分解菌の探索 2. 円偏光が微細藻類に与える影響に関する調査
嘱託准教授	博士（農学）	三宮 一幸	専門分野：植物分子生物学 1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発 2. 耐暑性・耐乾性・耐塩性・耐虫性・耐病性を向上させた組換え作物の開発
特命准教授	博士（農学）	砂田 亜津子	専門分野：微生物学、分子生物学 1. 抗生物質生産菌抗生物質由来の抗生物質修飾酵素を用いた抗MRSA剤アルベカシンの耐性菌出現に関する予測研究 2. 抗生物質生産菌由来の抗生物質修飾酵素を用いた耐性菌の報告のないアミノグリコシドに対する耐性菌出現に関する予測研究
准教授	博士（農学）	田邊 俊朗	専門分野：生物資源利用科学、生物資源化学、食糧化学 1. キチン・キトサンからの生理活性物質生産、関連酵素の新規探索 2. リグノセルロース系バイオマスの前処理技術開発
講師	博士（理学）	萩野 航	専門分野：系統分類学、ダニ学、生態学 1. 日本産ササラダニ類の記載分類学 2. 土壤動物を活用した環境指標の開発 3. 地域の生物資源を生かした教育法の開発
助教	博士（学術）	石田 純	専門分野：海洋生物学、分子生物学、復元生態学 1. 海洋生物の熱ストレスへの応答：順化とその種内変異の工学 2. 海洋生物と褐虫藻の共生における温暖化の影響の解明 3. サンゴ礁の復元生態学、飼育実験の研究
特命助教	博士（工学）	儀武 菜美子	専門分野：環境微生物学、遺伝子工学 1. 微生物による環境汚染物質（芳香族化合物および高分子化合物）の分解機構と転写制御機構の解明 2. 海洋および土壌環境中における有用微生物の探索、微生物群集構造解析

■ 生物資源工学科 教育課程（令和7年度入学生）

授 業 科 目	単位数	区 分	学年別配当										備 考		
			1年		2年		3年		4年		5年				
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間			
全学科共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	通										
	創造演習	2	演習			2	通								
	産業創造セミナー	2	演習					2	通						
	インターンシップ	3	実習							3	通				
	情報技術の基礎Ⅰ	2	講義	2	通										
	情報技術の基礎Ⅱ	2	講義			2	通								
	プログラミングⅠ	2	演習	2	通										
	プログラミングⅡ	2	演習			2	通								
生物化学工学群	バイオテクノロジー基礎実験	4	実験	4	通										
	有機化学Ⅰ	2	講義			2	通								
	有機化学Ⅱ	2	講義					2	通						
	生化学	2	講義					2	通						
	生化学実験	2	実験					2	通						
	生理学	2	講義					2	通						
	バイオインフォマティクスⅠ	2	講義							2	半			学修単位	
	バイオインフォマティクスⅡ	2	講義								2	半		学修単位	
	分子生物学	2	講義								2	半		学修単位	
	遺伝子工学	2	講義							2	半			学修単位	
	遺伝子工学実験	2	実験							2	半			学修単位	
	生物工学	2	講義							2	半			学修単位	
	生物工学実験	2	実験							2	半			学修単位	
	細胞生物学	2	講義								2	半		学修単位	
	生物物理学	2	講義								2	半		学修単位	
環境・微生物学群	微生物学基礎	2	講義			2	通								
	微生物学基礎実験	2	実験			2	通								
	微生物学	2	講義					2	通						
	環境生物学	2	講義					2	通						
	環境生物学実験	2	実験					2	通						
	環境生態学	2	講義							2	半			学修単位	
	環境工学	2	講義								2	半		学修単位	
食品化学工学群	食品化学基礎	2	講義							2	半			学修単位	
	発酵学	2	演習							2	半			学修単位	
	産業化学	2	演習					2	通						
	香粧品科学	2	講義								2	半		学修単位	
	プロセス工学Ⅰ	2	講義								2	半		学修単位	
	プロセス工学Ⅱ	2	講義								2	半		学修単位	
共通群	物理・化学基礎実験	1	実験	1	半										
	物理化学基礎	2	講義					2	通						
	プレゼミナール	2	演習							2	半			学修単位	
	生物資源ゼミナール	2	実習								2	通		学修単位	
	卒業研究	8	実験									8	通		
修 得 単 位 計		90				11	12	20	21	26					
選 択	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	開 設 単 位 計		5			1	1	1	1	1					
	修 得 単 位 計		0			0	0	0	0	0					
開 設 単 位 合 計		95				12	13	21	22	27					
修 得 単 位 合 計		90				11	12	20	21	26					

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。（詳細は別に定める）

基盤教育科

基盤教育科では、5年一貫の教育課程の中で一般科目を通して社会人として必要な知識や教養を身につけます。また、専門科目と緊密に連携し、社会の急速な変化に対応できる技術者として各学科に共通な学問の基礎を養います。そのため、高校と大学間の授業内容の重複を避け、5年間を通しての効果的なカリキュラムを編成します。国際化社会に対応するため外国語教育を重視し、特に英語では高度な英語力を養うために、「読む」「聞く」「書く」「話す」の基礎技能の鍛錬から始まり、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力の伸長を図ります。国語教育においては、論理的に文章を分析し、自らの考えを表現できる力を養うとともに、国際的に活躍する技術者に必要なコミュニケーション能力を育成します。専門科目につながる自然科学や数学の授業は、理論を追求するだけでなく、基礎理論を工学的に発展させることのできる応用力も育成します。さらに専門共通科目と連携し、低学年から社会ニーズを取り入れた教育を実践します。



国語 I の授業風景



英語の授業風景 1



英語の授業風景 2



数学の授業風景

教員 (現員)

職名	学位・資格	氏名	専門分野
教授	博士(理学)	小池 寿俊	環論
教授	博士(理学)	成田 誠	一般相対論、非線型偏微分方程式
教授	博士(理学)	山本 寛	複素解析学
准教授	修士(社会学)	カーマン マコア	家族学
准教授	博士(理学)	木村 和雄	地理学、地形学
准教授	博士(文学)	澤井 万七美	芸能史、演劇学
准教授	博士(文学)	下郡 剛	日本中世史、近世琉球史、古文書学
准教授	博士(理学)	藤本 教寛	素粒子論
准教授	博士(理学)	吉居 啓輔	数学基礎論
准教授	修士(体育学)	和多野 大	スポーツ心理学、スポーツ科学
特命准教授	博士(学術)	真喜屋 美樹	都市政策、地域経済学
講師	博士(文学)	片山 鮎子	日本語学(中世)
講師	博士(言語学)	崎原 正志	言語学、琉球語学、日本語学
講師	修士(スポーツ学)	島尻 真理子	スポーツ科学、コーチング、ハンドボール
講師	修士(人類学)	山内 祥之	文化人類学
講師	修士(カウンセリング学)	吉井 りさ	日英スピーチ・プレゼンテーション教授法

兼任教員

職名	担当	氏名	所属学科
教授	1年4組担任	金城 伊智子	情報通信システム工学科
准教授	2年4組担任、2年学科担任	比嘉 修	情報通信システム工学科
講師	2年1組・2年2組副担任、2年学科担任	赤嶺 宗子	機械システム工学科
講師	1年2組副担任、1年学科担任	宮城 桂	情報通信システム工学科
講師	2年2組担任、2年学科担任	萩野 航	生物資源工学科
講師	1年3組・1年4組副担任、1年学科担任	比嘉 聖	機械システム工学科
特命助教	1年1組副担任、1年学科担任	儀武 菜美子	生物資源工学科

創造システム工学専攻

沖縄高専の専攻科は、教育理念、教育目的、育成する技術者像にもとづき、それぞれの学位申請区分となる専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、生物工学）において、深い専門知識を修得し、さらには異なる分野の知識も修得し、融合・複合化の進んでいる産業界において、実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指し、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。本科との科目関連と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースから構成されています。この4コースの専門性を融合・複合するための実験科目や国内外の長期インターンシップ等の特徴的なカリキュラムを策定しています。授業で扱う内容には大学院修士課程と同等レベルの高い専門技術教育も含まれており、選択科目として所属コース以外の科目を履修することも可能であり、学生の希望に応じた幅広い分野の学修機会が得られます。また、課題発見から議論、提案、発展、解決のプロセスを学ぶエンジニアリングデザイン教育（Engineering Design Education）を実施して、実際のプロジェクト遂行（PBL 教育）を踏まえ、設計や製造に限らず、工程管理、予算管理などを実施し、これらの成果報告を行うことで実践力を養います。

【専攻科の入学定員・収容定員】

専攻名	入学定員	収容定員
創造システム工学専攻	24	48

■ 創造システム工学専攻 教育課程（令和7年度入学生）

コース	種別	必修・ 選択の別	科目名	単位数	区分	学年別配当単位数				備考
						1年		2年		
						前期	後期	前期	後期	
全 コ ー ス	一般 科目	必 修	実用英語Ⅰ	2	講義	2				
			実用英語Ⅱ	2	講義		2			
			特別研究ⅠA	3	実験	3				
			特別研究Ⅱ	8	実験				8	
			専攻科実験	4	実験				4	
			創造システム工学実験	4	実験	4				
	修得単位数計			23			11		12	
	一般 科目	選 択	日琉交流史	2	講義			2		
			地球科学特論	2	講義			2		
			琉球諸語入門	2	講義	2				
			English Business Communication	2	講義			2		
			スポーツ科学特論	2	講義				2	
			創造システム工学セミナー一般	2	講義	2			2	
	修得単位数計			4				4		
	専 門 共 通 科 目	選 択	特別研究ⅠB	3	実験			3		
			長期インターンシップ	4~12	実習			4~12		
			物理学特論	2	講義			2		
			数学通論	2	講義	2				
			応用解析学	2	講義			2		
			応用物理特論	2	講義	2				
			物理化学	2	講義			2		
			バイオテクノロジー	2	講義			2		
			バイオマス利用工学	2	講義			2		
			品質・安全マネジメント特論	2	講義			2		
			経営工学	2	講義				2	
			デザインエンジニアリング概論	2	講義			2	2	
			グローバルインターンシップ	2	実習				2	
創造システム工学セミナー専門			2~8	講義			2~8			
修得単位数計			15			15				
修得単位数計			42			42				
開設単位数計			78			80				

種別	コース	必修・ 選択の別	科目名	単位数	区分	学年別配当単位数				備考
						1年		2年		
						前期	後期	前期	後期	
専門科目	機械システム工学コース	必修	材料学特論	2	講義	2				
			溶接・接合工学	2	講義			2		
			連続体力学	2	講義	2				
			材料強度学特論	2	講義			2		
			数値シミュレーションⅠ	2	講義		2			
			数値シミュレーションⅡ	2	講義			2		
			生産工学特論	2	講義			2		
			制御系構成論	2	講義		2			
			表面工学	2	講義				2	
			輸送現象論	2	講義	2				
			流体工学特論	2	講義	2				
			熱機関工学	2	講義	2				
			ロボット工学	2	講義				2	
	技術管理概論	2	講義				2			
	電子通信システム工学コース	必修	シミュレーション工学	2	講義		2			
			数理計画法	2	講義		2			
			生体情報工学	2	講義			2		
			数値解析論	2	講義			2		
			信号処理特論	2	講義		2			
			アルゴリズム理論	2	講義				2	
			マイクロ波工学	2	講義	2				
			システムLSI設計工学	2	講義	2				
			光電子デバイス	2	講義	2				
			半導体物性工学	2	講義		2			
			弾性波工学	2	講義			2		
			電子機器工学	2	講義				2	
			知能システム特論	2	講義			2		
	LSIプロセス工学	2	講義	2						
	情報工学コース	必修	情報数学	2	講義	2				
			メディアコンテンツ特論	2	講義		2			
			組込システム特論	2	講義	2				
			データ工学	2	講義		2			
			情報セキュリティ特論	2	講義			2		
			ソフトウェア開発特論	2	講義				2	
			計算機科学特論	2	講義	2				
			ロボティクス	2	講義			2		
			ヒューマンインタフェイス	2	講義			2		
			ネットワーク特論	2	講義		2			
			システム制御工学	2	講義	2				
			画像処理特論	2	講義		2			
			デジタルフォレンジック	2	講義				2	
	プログラミング特論	2	講義			2				
	生物資源工学コース	必修	資源生物機能形態学	2	講義	2				
			分子生物学Ⅱ	2	講義	2				
			植物工学	2	講義			2		
			無機化学	2	講義		2			
			代謝生化学	2	講義			2		
応用微生物学			2	講義	2					
酵素化学			2	講義	2					
醸造学			2	講義		2				
生物資源の機能性科学			2	講義			2			
酸化ストレスの生命科学			2	講義		2				
タンパク質資源利用学			2	講義			2			
食品化学			2	講義		2				
食品機能学			2	講義			2			
		他コースの選択科目						6単位まで認める		
	選択	航空工学Ⅰ	2	講義	2					
		航空工学Ⅱ	2	講義	2					
		航空工学Ⅲ	2	講義			2			
		航空工学Ⅳ	2	講義				2		
		修得単位数計	20			20				
		開設単位数計	118		68	50				
		修得単位数計	62			62				
		開設単位数計	198			198				

※ 本校以外の教育施設で修得した単位を認めることがある

観光・地域共生デザインコース

最新情報は
こちらを
ご覧ください→

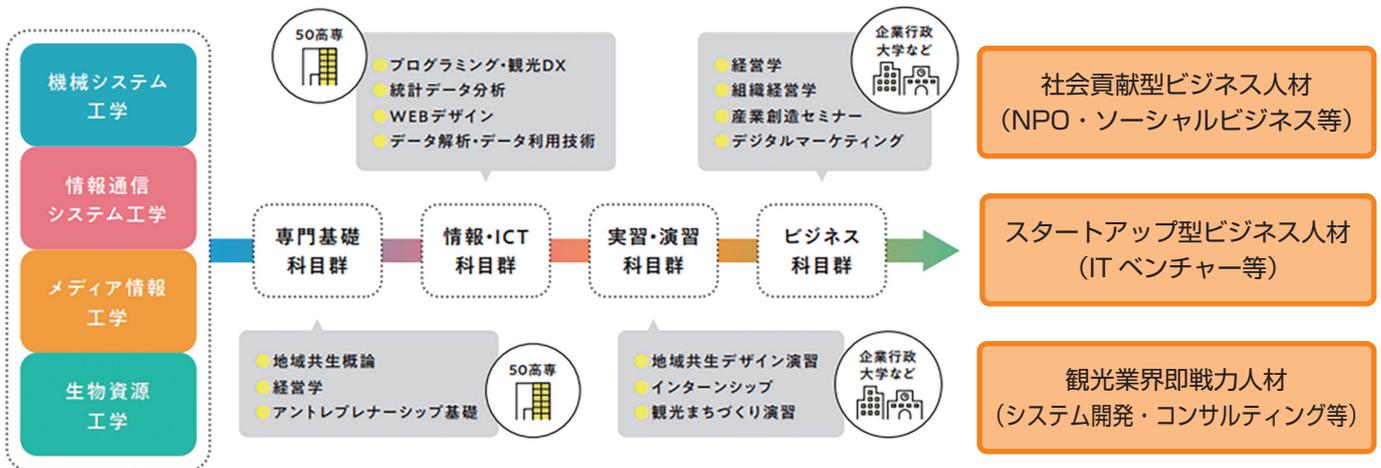


専門教育に加え、地域との共生を考える教育を充実させることで、「新たな価値を創造できる人材」を育成します。

今、地域の経済発展と社会的課題解決に向け、柔軟な発想力と実践力を備えた若い人材が求められています。中でも、地域の強みを見出し、それを伸ばし、地域の発展に貢献するため、新たな価値を創造できる人材の輩出が、このコースに求められたミッションとなっています。観光・地域共生デザインコースでは、環境技術と情報処理技術を基礎とした工学系の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、観光資源開発や地域共生システムをデザインできる創造性豊かな人材を育成します。このコースを受講した学生は、自身の専門分野に地域共生デザイン力を組み合わせ、新しい付加価値を創造できる能力を身につけ、沖縄の地域の未来をデザインできるエンジニアを目指します。

特色ある科目

数学的思考や情報処理能力と経営企画能力との統合を目指した科目を取り入れています。観光と地域共生システムを環境に調和させつつ構築できるような実践的・創造的技術者を育成します。



観光DX

～企業の抱える課題を使って
課題解決に導こう～



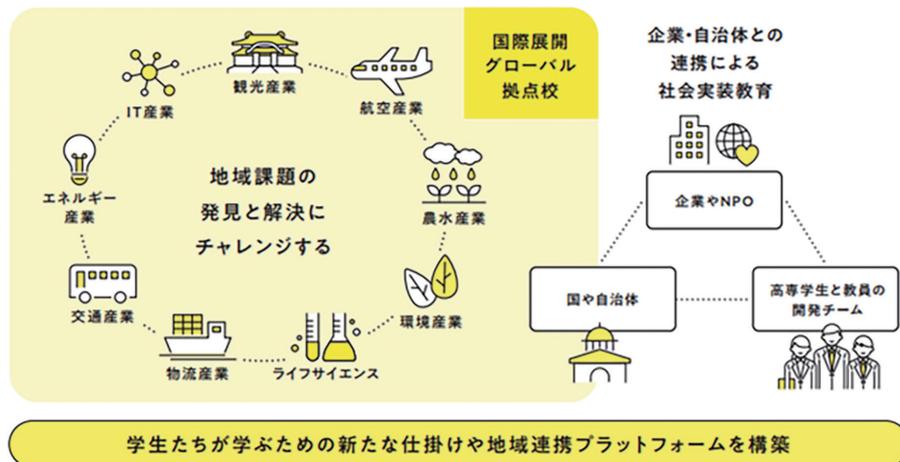
実際に企業が取り組んでいる課題を題材に、DX化の検討をメインとしつつも、あらゆる視点で解決策を提案することを目的としており、創造性や思考力を育みます。

学生達は、十数グループに分かれ、提示された課題をそれぞれが取り組むテーマへと昇華させ、企業の方々と議論を展開し、アプリ開発、未利用地の活用、ツアーの企画などで課題解決策を提案し、高い評価を得ました。

特色ある教育で身につく力

観光・地域共生デザインコースでは、民間の最先端の現場に立つ講師を招いた授業を取り入れたり、「社会のために何をつくるべきか？」を地域社会と共に考え、取り組む「社会実装教育」を行います。

- 身につく力
- ① 観光・地域共生の視点から、自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的に思考できる能力
 - ② 情報技術の基礎知識を備え、ハードウェアとソフトウェア両面から社会問題を解決できる基本技術力
 - ③ 経済と経営の基礎知識を理解し、統計やデータ解析を用いて地域課題の解決策をデザインできる能力
 - ④ 地域の自然・都市・交通を含めた環境の基礎知識を有し、新たなリソースを発見・提案できる基礎的企画力



航空技術者プログラム

最新情報は
こちらを
ご覧ください→



航空技術者プログラム

沖縄の空を、そして世界の空を支える航空技術者へ!



沖縄県は「沖縄21世紀ビジョン」の中で、航空機整備事業（MRO事業）を中心とした『航空関連産業クラスターの形成』を重点戦略の一つとして掲げています。このMRO事業を支え、地域に根差す産業を構築するためには、エンジニアとしての素養を有する航空整備士の育成が必要となります。

本校の「航空技術者プログラム」は、これに対応できる人材を輩出することを目的として、各専門分野の知識・技術をベースとした航空整備士並びに航空技術者を目指す人材を育成するために開設されました。この人材育成プログラムは、学科を問わず本科2年生から本科5年生までの4年間に渡る教育課程となっており、最初の2年間で航空機に関する基礎や沖縄県の航空事業及び観光産業などの導入教育を実施し、後半の2年間では専門的な講義や、航空関連産業の現場でのインターンシップ実習を行います。これらの授業には、JTA、MRO Japan及びANAに在籍する実務経験者に参画いただいております。実践的かつ高度な教育を実施しています。さらには、エアラインを始めとした航空関連企業に在籍する卒業生も後輩技術者の育成に協力してくれています。

これまでに協力機関より提供された教材も充実してきており、技術教育の面においても、その効果が期待されます。県内外の複数の協力機関と協働することにより、地域に貢献できる人材の輩出に務めています。

■ 外部講師（実務経験者）

講師派遣元	担当授業	イベント等
JTA	航空基礎Ⅰ、航空基礎Ⅱ、航空機技術Ⅰ、航空機技術Ⅱ、航空実習（実習）	オープンキャンパス
MRO Japan&ANA	特別講義（1年生）、インターンシップ、航空実習（講義）	オープンキャンパス、サマースクール

4年間の実践的教育プログラム

+ 1年生向け講演会等の実施



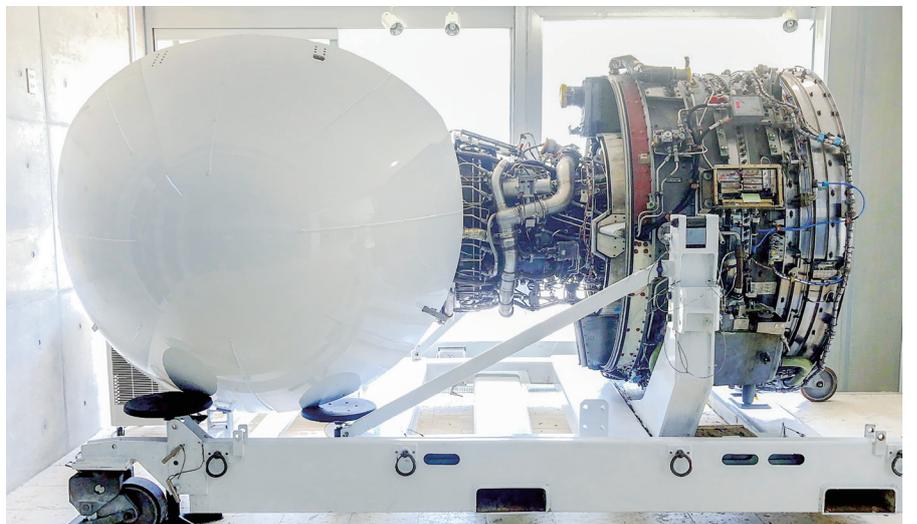
航空技術者プログラムの概略



空港施設見学の様子



実習の様子



校舎内に設置されたターボファンエンジンおよびレドームエンジン（JTA様より寄贈）、レドーム（Peach Aviation様より寄贈）

特色のある教育

IoT教育事業

沖縄高専では、低学年で一般科目や専門科目はもちろんコンピュータの基礎技術・プログラミング・プレゼンテーションを全員が学びます。また、人材育成教育として、創造研究や高専セミナーなどの専門分野を横断した特色ある授業があります。本校の学生は、1人1台ノートパソコンを所有しており、変化する時代に活躍する技術者・研究者になるためにパソコンを活用したICT / IoT / AI教育が行われています。さらに、数理・データサイエンス・AI教育の強化を図り、課題解決型技術者の育成を目的に、令和6年度から新たな教育を進めています。地域の課題に目を向け、その課題解決に向けた社会実装を通して、毎年多くの学生達が様々なコンテストにチャレンジしています。

実施目標

- ・1年生でのIoT学習：主に簡単なプログラミングやセンシング、などの基礎技術を学びそこから、アイデアを出していくことが出来るよう授業内容を組み込む。
- ・2年生でのIoT学習：学んだプログラミングやセンシングをもとに自分でアイデアした仕組みを構築する演習を取り入れる。
- ・3年生以上でのIoT学習：学習した内容を応用し、ユーザーのニーズ把握から機器のアイデア出し、プロトタイプ機器の開発などに発展するように創造研究などに取り入れる。
⇒コンテストなどへの参加

創造演習（数理・データサイエンス・AI教育の強化） / 創造研究の取り組み

4学科共通したICT/IoT教育（情報技術の基礎・高専セミナー・プログラミング）

機械システム工学科

情報通信システム学科

メディア情報工学科

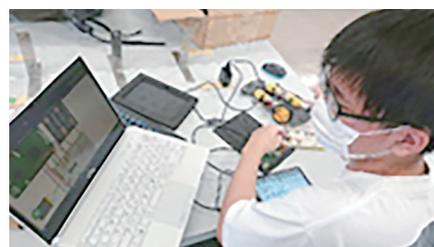
生物資源工学科

2024年度：ICT/IoT/AIを活用に関連したコンテストの主な受賞実績

大会名等	受賞内容
第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト 提案名：SEA-VIS-水中ドローンとAIによる調査システム	課題部門 特別賞 シーエーシー企業賞
第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト 提案名：シオサビン-塩害を検知、予報し被害を未然に防ぐ塩害対策アプリ	自由部門 敢闘賞
高専ワイヤレスティックコンテスト(WiCON2024) 提案名：高エネルギー宇宙放射線を活用した大規模防災エコシステム	NEC賞
高専ワイヤレスティックコンテスト(WiCON2024) 提案名：視覚障がい者の自由な移動を支援する次世代ウェアラブルデバイス「わんだらん」	WiCONイノベーション賞
第3回高専防災減災コンテスト 提案名：災害時孤立地域の情報架け橋 アドホック防災ヘルメットの開発	防災科研賞
第13回社会実装教育フォーラム 提案名：水中ドローンとAIを使った沖縄に住むサンゴと魚の健康調査	優秀社会実装賞（2位相当）
第2回高専起業家サミット 提案名：サステナブルビューティー：未来をつなぐ、海と子供たちにやさしいコスメ	ソーシャルドクター部 最優秀賞



授業の様子（マイコンによるディープラーニングプログラムの開発）



授業の様子（マイコンによる自作デバイスの開発）



第13回社会実装教育フォーラム
提案名：水中ドローンとAIを使った沖縄に住むサンゴと魚の健康調査



第2回高専起業家サミット
提案名：サステナブルビューティー：未来をつなぐ、海と子供たちにやさしいコスメ



第3回高専防災減災コンテスト
提案名：災害時孤立地域の情報架け橋 アドホック防災ヘルメットの開発



第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト
提案名：SEA-VIS-水中ドローンとAIによる調査システム

学生

学生定員・現員

令和7年5月1日現在

本科

学 科	収容定員	現 員					
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
機械システム工学科	200	43(7)	43(5)	40(3)	41(4)	34(3)	201(22)
情報通信システム工学科	200	43(6)	41(5)	44(9)	44(3)	41(9)	213(32)
メディア情報工学科	200	42(13)	43(12)	47(17)	38(9)	50(18)	220(69)
生物資源工学科	200	42(27)	39(16)	44(29)	42(20)	35(15)	202(107)
計	800	170(53)	166(38)	175(58)	165(36)	160(45)	836(230)

※(注) ()は女子で内数。

コース

コース	収容定員	現 員			
		第1学年	第2学年	計	
創造システム工学専攻	48	機械システム工学コース	8(1)	8(1)	16(2)
		電子通信システム工学コース	6(0)	7(1)	13(1)
		情報工学コース	3(0)	4(0)	7(0)
		生物資源工学コース	10(3)	10(6)	20(9)
計	48	27(4)	29(8)	56(12)	

※(注) ()は女子で内数。

入学志願者及び入学者

令和7年度入試実績

本科

学 科	入学定員	志願者数(第1志望)				入学者数			
		推薦	学力	帰国生徒	計	推薦	学力	帰国生徒	計
機械システム工学科	40	22(5)	37(3)	0(0)	59(8)	22(5)	20(1)	0(0)	42(6)
情報通信システム工学科	40	20(3)	31(4)	0(0)	51(7)	20(3)	23(3)	0(0)	43(6)
メディア情報工学科	40	31(12)	30(5)	0(0)	61(17)	23(10)	19(3)	0(0)	42(13)
生物資源工学科	40	43(26)	33(15)	0(0)	76(41)	23(19)	19(8)	0(0)	42(27)
計	160	116(46)	131(27)	0(0)	247(73)	88(37)	81(15)	0(0)	169(52)

※(注) ()は女子で内数。

コース

コース	入学定員	志願者数			入学者数			
		推薦	学力	計	推薦	学力	計	
創造システム工学	24	機械システム工学コース	9(1)	1(0)	10(1)	7(1)	1(0)	8(1)
		電子通信システム工学コース	6(0)	1(0)	7(0)	6(0)	0(0)	6(0)
		情報工学コース	1(0)	6(1)	7(1)	1(0)	2(0)	3(0)
		生物資源工学コース	13(3)	3(0)	16(3)	10(3)	0(0)	10(3)
計	24	29(4)	11(1)	40(5)	24(4)	3(0)	27(4)	

※(注) ()は女子で内数。

県内外別入学者数の内訳

本科

学 科	推 薦			学 力		
	県内	県外	計	県内	県外	計
機械システム工学科	22	0	22	18	2	20
情報通信システム工学科	19	1	20	23	0	23
メディア情報工学科	22	1	23	19	0	19
生物資源工学科	23	0	23	18	1	19
計	86	2	88	78	3	81

コース

コース	推 薦			学 力			
	県内	県外	計	県内	県外	計	
創造システム工学	機械システム工学コース	7	0	7	1	0	1
	電子通信システム工学コース	6	0	6	0	0	0
	情報工学コース	1	0	1	2	0	2
	生物資源工学コース	8	2	10	0	0	0
計	22	2	24	3	0	3	

※(注) 専攻科は「出身中学校」で計上。

外国人留学生の出身国内訳

国・地域名	本 科						専攻科		
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計	第1学年	第2学年	計
タイ	0(0)	0(0)	4(0)	4(1)	1(1)	9(2)	0(0)	0(0)	0(0)
マレーシア	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)
ミャンマー	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)
インド	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
イラン	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
ラオス	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	0(0)	0(0)	7(0)	5(1)	3(2)	15(3)	0(0)	0(0)	0(0)

※(注) ()は女子で内数。

高等学校等就学支援金制度

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

※就学支援金は学生本人（保護者等）が直接受け取るものではありません。学校が学生本人に代わって国から就学支援金を受け取り、授業料に充当するものです。授業料と就学支援金との差額分については学生本人に負担していただくことになります。

【支給対象者】

本科1年生～3年生で、定められた所得判定基準未満の世帯が就学支援金支給の対象となり、学校に申請を行うことにより、下表に記載の金額が支給されます。

但し、①本校入学前に高等学校等を卒業した学生、②留年、休学等により在学期間が通算して36月を超える学生は対象となりません。

所得判定基準等

市町村民税の課税標準額 × 6% －市町村民税の調整控除の額（※） （保護者等合算額）	就学支援金支給額 （月額）	授業料 本人負担額 （月額）
304,200円以上～	0円（支給なし）	19,550円
154,500円以上～304,200円未満	9,900円（一律支給のみ）	9,650円
0円（非課税）～154,500円未満	19,550円（加算額9,650円）	0円

※6%は市町村民税の標準税率（標準税率との関係で、調整控除の額について指定都市の場合は調整（3/4 を乗じる）が必要）。また、調整控除とは、平成19年に国から地方へ税源が移譲したことに伴い生じる個人住民税と所得税の人的控除の差額に起因する負担増を調整するための控除。

高等学校等修学支援事業費補助金（高校生等臨時支援）制度

高等学校等修学支援事業費補助金（高校生等臨時支援）制度（以下、「臨時支援金」という。）とは、高等学校等就学支援金（以下、「就学支援金」という。）制度で所得制限を受けている年収910万円以上世帯の高校生等を対象に、臨時支援金として国が所要額を補助するものです。なお、支給方法については、就学支援金と同様に、機構が国から代理受領し授業料債権に充当することとします。

①対象となる者

本科1～3年生のうち、以下の条件を満たす者。

- A) 日本国内に住所を有する者
- B) 高等学校等（修業年限3年未満のものを除く。）を卒業又は修了していない者
- C) 高等学校等に在学した機関が通算して36月を超えない者
- D) 令和7年度就学支援金の受給資格の認定で所得制限に該当した者

②支給期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日の1年間。

（令和7年度限りの事業であるため、令和8年度以降に過年度の支給はされないことに留意すること。）

③支給限度額

118,800円／年

④受給資格認定

新入生・在生とともに以下のとおり、7月に申請を行うことを基本とします。

（以下の申請をe-Shienで行えるよう、システム改修予定です。）

【新入生】

4月 就学支援金の意向確認・申請

7月以降 就学支援金判定→臨時支援金の意向確認→就学支援金収入状況届出→臨時支援金申請

8月以降 臨時支援金の認定

【在生】

7月以降 就学支援金・臨時支援金の意向確認→就学支援金収入状況届出→臨時支援金申請

9月以降 臨時支援金の認定

奨学生

日本学生支援機構奨学金 第一種及び第二種奨学金貸与月額表

学年	第一種奨学金		
	自宅通学	自宅外通学	
本科	1年	21,000円又は10,000円	22,500円又は10,000円
	2年		
	3年		
	4年	45,000円・30,000円・(20,000円) から選択	51,000円・(40,000円)・30,000円・(20,000円) から選択
	5年		
専攻科	1年	45,000円・30,000円・(20,000円) から選択	51,000円・(40,000円)・30,000円・(20,000円) から選択
	2年		

※()は平成30年度入学者より選択可能。

学年	第二種奨学金	
	自宅通学	自宅外通学
本科	4年	20,000円から120,000円までの金額の中から1万円単位で選択可能
	5年	
専攻科	1年	20,000円から120,000円までの金額の中から1万円単位で選択可能
	2年	

令和6年度奨学金受給実績（高等教育の修学支援新制度除く）

区分	本科					専攻科		計			
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年				
在学者数	165	162	173	163	175	29	27	894			
支援機構 日本学生	第一種	自宅通学		1	1	0	4	4	0	2	12
		自宅外通学		5	2	5	13	14	0	4	43
	第二種					4	4	1	3	12	
その他の機関				0	5	5	6	15	2	1	34
計				6	8	10	27	37	3	10	101
制度利用者の割合	3.6%	4.9%	5.8%	16.6%	21.1%	10.3%	37.0%	11.3%			

主な学費

就学費用

入学科	授業料	日本スポーツ振興センター共済掛金
84,600円	年 234,600円	年 770円

高等教育の修学支援新制度

令和2年4月から、要件を満たす本科4年生～5年生及び専攻科生に対し、高等教育の修学支援新制度が適用され、学校に申請を行うことにより、授業料等の減免及び給付型奨学金の給付が受けられます。なお、本科1年生～3年生は「高等学校等就学支援金制度」により授業料の支援がありますので、本制度の対象外となります。



高等教育の修学支援新制度の情報はこちらをご覧ください↑

授業料等減免の上限額（年額）※

入学科（専攻科）	授業料
84,600円	234,600円

給付型奨学金の給付額（月額）※

自宅	自宅外
17,500円	34,200円

※住民税非課税世帯の学生の場合。住民税非課税世帯に準ずる世帯の学生は、住民税非課税世帯の学生の2/3、1/3又は1/4の支援額。

令和6年度実績

区分	本科		専攻科		計	
	4年	5年	1年	2年		
在学者数	163	175	29	27	394	
前期	第Ⅰ区分	26	28	7	5	66
	第Ⅱ区分	10	8	1	2	21
	第Ⅲ区分	6	10	1	4	21
	第Ⅳ区分	9	0	1	0	10
	計	51	46	10	11	118
制度利用者の割合	31.3%	26.3%	34.5%	40.7%	29.9%	
後期	第Ⅰ区分	22	25	4	6	57
	第Ⅱ区分	13	12	3	1	29
	第Ⅲ区分	5	5	2	3	15
	第Ⅳ区分	7	2	0	1	10
	計	47	44	9	11	111
制度利用者の割合	28.8%	25.1%	31.0%	40.7%	28.2%	

令和7年3月卒業者の進路状況

令和7年5月1日現在

区分	学 科				合 計
	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
卒業予定者数※2	41	41	45	40	167
進学希望者数	9	10	17	17	53
合格者数	9	10	12	16	47
うち専攻科合格者数	7	6	2	10	25
うち3年次編入等合格者数	2	3	9	5	19
うち専門学校・その他合格者数	0	1	1	1	3
進学合格率(合格者数/進学希望者数)	100.0%	100.0%	70.6%	94.1%	88.7%
進学先※1	沖縄工業高等専門学校専攻科(7) 東京通信大学 金沢大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(6) 豊橋技術科学大学 千葉大学 熊本大学 東京デザイン専門学校	沖縄工業高等専門学校専攻科(2) 豊橋技術科学大学(3) 沖縄国際大学 東京工科大学 名古屋大学 琉球大学 金沢大学 長野大学 那覇日経ビジネス専門学校	沖縄工業高等専門学校専攻科(10) 長岡技術科学大学(2) 東京モード学園 佐賀大学 高知大学 名城大学	
就職希望者数	32	31	28	23	114
就職者数	25	28	28	19	100
就職率(就職者数/就職希望者数)	78.1%	90.3%	100.0%	82.6%	87.7%
就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業		沖縄工業高等専門学校技術支援室 就労移行支援事業所 TechTech (テクテク)	株式会社 ヴィッツ沖縄(5) 株式会社シーエーシー 株式会社オブティム CB cloud株式会社		
	計 0 名	計 2 名	計 8 名	計 0 名	県内計 10 名
	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 7%	就職者に占める割合 29%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 10%
就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	ANA ラインメンテナンステクニクス株式会社(3) ANA 成田エアポートサービス株式会社 Daigas エナジー株式会社 SOLIZE 株式会社 出光興産株式会社(3) 株式会社 JAL エンジニアリング 株式会社アルティア 株式会社ダイワビジネスサポートセンター トーテックアメニティ株式会社 トランスコスモス株式会社 パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社(2) パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社(2) レイズネクスト株式会社(2) 株式会社レゾナック 三菱ビルソリューション株式会社 蛭川造園土木株式会社 日鉄パイプライン&エンジニアリング株式会社 ジョンソンコントロールズ株式会社	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社(2) KDDI アジャイル開発センター株式会社(3) NTT データソフィア株式会社 株式会社 RKKCS 株式会社日立ハイシステム21(2) 東京エレクトロン株式会社 パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 横河ソリューションサービス株式会社 株式会社 FIXER(4) 株式会社 エス・アイ・エス(2) 株式会社 エヌ・ティ・ティエムイー 株式会社 ソフトウェア・サイエンス 三菱電機エンジニアリング株式会社 出光興産株式会社 東京電力ホールディングス株式会社 富士通株式会社 株式会社 光岡自動車	出光興産株式会社 株式会社ソフトウェアサイエンス 株式会社日立ハイシステム21(3) 株式会社 U-NEXT HOLDINGS フラー株式会社 株式会社トヨタシステムズ 株式会社 アイ・エス・ピー RIZAP グループ株式会社 NTT データソフィア株式会社(2) 株式会社 アルトナー 株式会社 トヨタプロダクション エンジニアリング エスアイエス・テクサービス株式会社 株式会社 NHK テクノロジーズ 株式会社日立システムズエンジニアリングサービス トランスコスモス株式会社 日本電気航空宇宙システム株式会社 タイムカプセル株式会社	アイリスオーヤマ株式会社 イオンフードサプライ株式会社 サンリーホールディングス株式会社 旭化成株式会社 横河ソリューションサービス株式会社 花王株式会社(2) 三井製糖株式会社 三建設備工業株式会社 新菱冷熱株式会社 雪印メグミルク株式会社(2) 第一三共プロファーマ株式会社 中外製薬工業株式会社 株式会社 スタッフサービスエンジニアリング アサヒビール株式会社 沢井製薬株式会社(2) 富士フイルム富山化学株式会社	
	計 25 名	計 26 名	計 20 名	計 19 名	県外計 90 名
	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 93%	就職者に占める割合 71%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 90%

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

※2 卒業予定者数には留学生を含む。

令和7年3月修了者の進路状況

令和7年5月1日現在

区分	コース				合計
	機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
修了者数	5	8	5	8	26
進学希望者数	2	1	0	4	7
合格者数	2	1	0	3	6
うち大学院等合格者	2	1	0	3	6
うち専門学校・その他合格者	0	0	0	0	0
進学合格率（進学者数／進学希望者数）	100.0%	100.0%	—	75.0%	85.7%
進学先※1	東北大学大学院 豊橋技術科学大学大学院	北陸先端科学技術大学院大学		東京科学大学生命理工学院 名古屋大学大学院 茨城大学大学院	
就職希望者数	3	7	5	4	19
就職者数	3	7	5	4	19
就職率（就職者数／就職希望者数）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職先企業名 （県内） 県内に本社のある企業	金秀ホールディングス				
	計0名	計1名	計0名	計0名	計1名
	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 14%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 5%
就職先企業名 （県外） 県外に本社がある企業	サントリーホールディングス株式会社 INTLOOP 株式会社 富士電機株式会社	株式会社クレスコ ARSTECH GUILD 株式会社 KDDI 株式会社 (2) 株式会社 ISF NET 株式会社エスユーエス	株式会社 U-NEXT HOLDINGS 株式会社 アイエンター 株式会社シーエーシー 合同会社 DMM.com 株式会社日立アドバンスシステムズ	東京都下水道サービス コスモ石油株式会社千葉製油所 旭化成株式会社 沢井製薬株式会社	
	計3名	計6名	計5名	計4名	計18名
	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 86%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 95%

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（ ）内に示しています。

卒業生の活躍



メディア情報工学科16期（令和5年3月卒） 山川 陽 亮

メディア情報工学科16期卒業生の山川陽亮です。現在は月間1,000億リクエストを処理する大規模Webサーバーの開発・運用に携わっており、多くの人が意識せずともサービスを使える「当たり前」を技術で支える仕事をしています。

私が高専を選んだ理由は1年生から専門科目の授業で技術に触れることや学生寮でのびのびと学べる環境に惹かれたからです。初めてのプログラミングの授業に苦戦することもありましたが、コンピューターネットワークなど自分の好きな分野も見つかりました。特にスマートフォンやコンピューターが繋がる仕組みに触れたことでその裏側が気になり、「なぜこう動くのか」と考えることが増えました。

社会人になった今、その「なぜ」を考える姿勢や知識が仕事で活きていると実感します。エンジニアに不可欠な課題を解決する力、物事的前提を疑う視点、そしてチームで開発を進める姿勢はどれも高専の授業や部活動、卒業研究を通して培われたものだと感じています。中でもネットワークとセキュリティをテーマにした卒業研究で得た知識は現在のサーバーを守るという仕事に繋がっています。皆さんも沖縄高専で自分の可能性を広げてみませんか！

学生寮

沖縄高専の学生寮は、1年生と2年生は優先的に入寮することが出来ます。3年生以上で引き続き入寮を希望する場合には、学生寮委員会で審議し、入寮の可否を通知します。

本校の学生寮は単に通学の便宜を図るためだけではなく、「学習の充実を図り、安全・安心な学びの環境を調べるとともに、基本的な生活態度や社会性を身につけ人間的成長を促進させる」ことを目的とした教育施設としての役割も果たしています。

カードキー、防犯カメラ、赤外線警戒センサーなどの警備設備のほか、当直教職員2名が寮内の安全を保持しています。

学生寮経費

(令和7年度)

寄宿料	800円(月額)
寮管理費	4,300円(月額)
居室電気料	前月使用分(月額)
給食費(3食)	1,300円(日額)

居室数

男子寮	女子寮	合計
408室	138室	546室

※ 居室は全て1人部屋です。

※ 居室とは別に、体調不良時に速やかに帰省できない場合の静養室を、男子寮に8部屋、女子寮に5部屋確保しています。



日課表

事項	平日	休日
起床	6:30 ~	6:30 ~
朝点呼	6:40 ~ 6:55	6:40 ~ 6:55
朝食	7:00 ~ 8:20	7:00 ~ 8:20
登校	7:15 ~ 8:30	
学生寮施設	8:30 ~ 14:30	
昼食	12:00 ~ 13:00	12:00 ~ 13:00
夕食	18:00 ~ 19:30	18:00 ~ 19:30
入浴	15:30 ~ 20:10	15:30 ~ 20:10
門限	20:10	20:10
夕点呼	20:10 ~ 20:30	20:10 ~ 20:30
清掃	20:30 ~ 21:00	20:30 ~ 21:00
学習時間帯	21:00 ~ 23:00	21:00 ~ 23:00
消灯準備時間帯	23:00 ~ 23:30	23:00 ~ 23:30
完全消灯	23:30	23:30

入寮者数

令和7年5月1日現在

		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	合計	
本科	1年	36 (5)	41 (6)	41 (12)	40 (27)	158 (50)	533 (137)
	2年	41 (5)	38 (5)	39 (8)	37 (14)	155 (32)	
	3年	27 (2)	29 (3)	27 (9)	30 (21)	113 (35)	
	4年	16 (2)	14 (1)	20 (2)	15 (4)	65 (9)	
	5年	7 (1)	12 (4)	16 (5)	7 (1)	42 (11)	
専攻科	専攻科1年	7 (1)				11 (1)	
	専攻科2年	4 (0)					
						544 (138)	

※ () はうち女子寮生

レストラン

晴れた日にはきれいな太平洋の眺めも楽しめるレストランは、寮生食堂のほか、教職員や寮生以外の学生のための一般食堂があります。ほかに学生会室、和室があり、学生が集まる憩いの場所になっています。



図書館 Library

図書館（メディア棟4階）は、教育・研究を支援する拠点の1つとして機能しています。

館内には自然科学や工学の専門書をはじめ、一般教養に役立つ資料、学術雑誌、百科事典、CD-ROM、DVD、ビデオテープ、カセットテープ、県内・本土・英字新聞、英語多読・多聴図書、高専・大学資料等を所蔵しています。

また、電子ジャーナルやデータベース、電子図書等を提供しています。

多くのことを学び、知識を広める情報収集活動の場・学習の場としてご利用ください。

開館時間

通常期	月～金曜日	8時～20時
	土曜日	9時～17時
休業期	月～金曜日	8時40分～17時
	(週末開館無し)	

休館日

日曜・祝祭日
年末年始
休業期の土曜

施設

閲覧室：740㎡
座席数：125席
AVブース：2席
メディアホール
自動貸出機
図書盗難防止システム
蔵書検索用端末
拡大読書機
電子ジャーナル・電子図書
閲覧用端末



蔵書数

【図書】(冊) 括弧内は内数で外国語図書

令和7年5月1日現在

総記	哲学・心理学	歴史・地理	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・体育	言語	文学	計
5,800 (319)	2,733 (104)	3,355 (118)	9,162 (318)	15,392 (1,276)	12,246 (972)	1,863 (34)	5,516 (1,172)	19,206 (16,791)	8,756 (60)	84,039 (21,164)

【雑誌】購読タイトル数 57 保有バックナンバー 20,267 冊

【新聞】9紙

【視聴覚資料】1,908 点

利用状況

年度	開館日数	入館者数	図書貸し出し冊数				図書等閲覧数			
			総数	学生	教職員	学外利用者	オンライン電子図書	雑誌	新聞	電子ジャーナル
令和6年度	279	79,585	8,877	7,280	1,545	52	310	883	774	7,596

情報検索データベース・電子ジャーナル

電子システム	概要
JDream III	科学技術全般文献データベース
CiNii Research	国内学術情報データベース
Science	米国科学振興協会発行の雑誌「Science」の電子版
Science Direct	エルゼビア社の電子ジャーナル

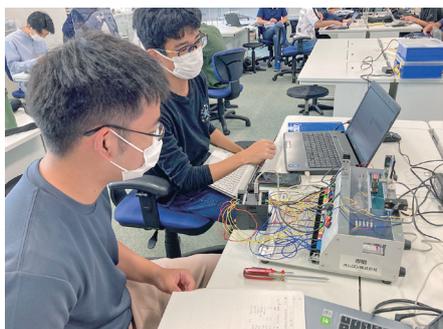
電子システム	概要
MathSciNet	米国数学会の数学文献データベース
理科年表プレミアム	国立天文台が編纂する自然科学系データブック
Maruzen eBook Library	丸善雄松堂の電子図書
Kinoden	紀伊國屋書店の電子図書

技術支援室

技術支援室は、実践的な教育・研究および地域貢献活動に対して、専門的な知識を活かして効果的・効率的に沖縄高専の教育・研究を支援するための組織です。本室には10名の技術職員が在籍し、実習工場系、電気電子情報系、生物科学分析系の技術分野を中心に専門4学科と連携した教育・研究活動を行っています。実験・実習および卒業研究においては専門的な知識に基づいた技術支援・指導を行うとともに、共同研究などにおける装置開発・機器分析に加えて、出前授業・公開講座などの地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。また、夢工場、学内のネットワーク環境・機器類、温室などの全学的な施設・設備の管理を行い沖縄高専の教育研究活動を全面的に支える存在です。



材料加工システムⅠ（仕上げの実習風景）



情報通信システム工学科実験Ⅱ
（シーケンス制御の実験を行う様子）



Okinawa Kosen Campで受け入れたシンガポールからの研修生に、地元沖縄の自然と動植物を紹介しました



創造演習
（Arduinoを用いた距離計測演習）



化学および化学実験法
（精密天秤を用いた質量計測）

職名	氏名	技術分野	
技術長	渡邊 謙太	バイオイメージングを活かした教育・評価、在来生物の利用と基礎研究	
副技術長 技術専門員	藏屋 英介	実験装置の開発、天然物・食品の機能性評価、におい・香りの分析評価	
技術専門員	具志 孝	汎用工作機械、CAD、CAM、NC工作機械	
工実 場 系 習	技術主査 技術専門員	大嶺 幸正	NC工作機械、汎用工作機械、エンジン動力の性能評価
	技術職員	小橋川 秀太	汎用工作機械、NC工作機械、設計、CAD
情電 報 系	技術職員	花城 宗一郎	情報処理、ネットワーク、サーバ、クラウド
	技術職員	金城 秀亮	システム設計・開発、データベース設計・運用
	技術職員	上江洲 佳奈	情報処理、Webデザイン
子 系	技術職員	市場 智也	情報処理、電気回路
分 析 科 学 系	技術職員	白幡 大樹	海産生物の生態、遺伝子工学

夢工場

沖縄高専に入学した学生は、創造力にあふれモノづくりに強い関心があり、その夢を叶える場として夢工場があります。学生の安全のため常に、技術職員が常駐しわからない事、やってみたい事があればいつでも技術相談ができる体制です。また夢工場の設備は、沖縄高専の学生なら自由に使用する事ができ、工具の貸出も行っています。使い方のわからない工具や工作機械の使用方法も教えています。さらに難しい機械加工の場合は、一緒にモノづくりの手助けを行っています。

夢工場は、実習の場でもあり基礎的なモノづくりに関連する実習を行っています。他にも、航空整備基礎実習、卒業研究、創造研究、ロボコンなど夢工場では様々な活動が行える環境が整っております。また夢工場の隣には、ロボコンの部室があり、ロボットコンテストに向けたロボット製作のサポートも行っています。



放課後 夢工場の様子



エンジン分解実習の様子



学生の活動動画を製作



夢工場で活動するロボット製作委員会

多文化共生・国際交流推進本部

令和4年度に「多文化共生・国際交流推進本部」を組織し、沖縄県の文化・歴史・風土、地域特性等を踏まえ、学内の「教育」「研究」「国際」の各組織が連携を強化して「オンキャンパス国際化」を推進します。

- ①本校の外国人留学生への効果的な教育（日本語・日本文化教育センター）
（令和7年度から「留学生日本語教育拠点校」として、高専機構全体の外国人留学生受入を推進します）
- ②本校学生の海外派遣、海外からの学生受入を通して国際的な視点・見識を持ちつつ地域に根差した人材を育成（留学生センター）
- ③出前授業や科学イベントで地域の諸課題等へ積極的に関与することによる地域振興への貢献（グローバル連携推進センター）
- ④タイ高専の他、諸外国研究機関等との国際的な先端研究を推進（国際共同研究推進センター）



1.日本語・日本文化教育センター

本校の外国人留学生の修学等を支援するとともに、日本人学生及び地域住民等との交流を促進し、本校における国際教育を推進します。令和6年度の主な実績、地域貢献は、以下のとおりです。

- ・ 沖縄地域留学生協議会主催留学生親善交流会参加
- ・ 沖縄地域留学生協議会主催文化交流会参加（塩玉お守り作り）
「第8回やんばるの食×文化フェスティバル学生研究発表コンテストあなたが作る未来の発酵食」発表
- ・ 新年行事もちつき大会 ・ 甘酒プロジェクト研究発表参加
- ・ 平和学習（講話学習、平和記念公園・ひめゆりの塔見学）
- ・ JICA国際交流フェスティバル参加
- ・ 九州高専5ブロック日本語キャンプ参加
- ・ 上海甘外中学校学生との交流 ・ まちなか留学参加
- ・ 赤十字CPR（救急法基礎講習）・海洋研修
- ・ タイ高専（KMITL）短期研修受入

そのほか、学内外でさまざまな留学生交流イベントを実施しております。多文化共生の視点から高専留学生も地域の市民の一員として活躍します。

【特命准教授：玉城梓（日本語学）、サビケ理奈（日本語教育）、今井智絵（日本語教育）】



2.留学生センター

本校の学生の海外派遣及び国際交流事業並びに海外からの留学生受入事業を推進し、本校における学生の国際交流を推進します。令和7年5月1日現在、本校では20名の留学生が在学しています。

- 専攻科生 タイ（1）
- 5年生 ミャンマー（1）、タイ（1）、マレーシア（1）
- 4年生 タイ（4）、インド（1）
- 3年生 タイ（4）、マレーシア（1）、イラン（1）、ラオス（1）
- インターンシップ生 タイ（4）

低学年から高学年まで多くの留学生を受け入れることによって、多文化共生・国際交流が学内で活発になっています。また、令和5年度から学生の海外派遣プログラムを再開しています。



3.グローバル連携推進センター

沖縄県におけるグローバル教育および生涯学習を推進するとともに、地域の教育機関と連携して教育水準の向上を図り、地域振興に貢献しています。令和6年度は20を超えるテーマの出前授業およびイベントを県内各地で開催し、皆様からご好評を頂きました。また、地元小学校の「磯の生物観察会」に、海洋生物に詳しい高専教員が同行するなど、地域との連携を深めてまいりました。令和7年度も、地域の皆様と共に楽しく学びの輪を広げていきます。



4.国際共同研究推進センター

本校の教職員の国際共同研究及び国際交流を推進します。主な業務内容は、A) 教職員の国際共同研究の推進に関すること、B) 研究者交流事業の策定・調整・実施に関することです。令和6年度は、教員が在外研究で滞在したことのある国を始め、複数教員が派遣されているタイとの連携模索を開始しました。将来的には、教職員が始めた国際研究を学生にも拡大・還元していきます。

留学生のコメント



「沖縄高専での留学生活」

生物資源工学科5年 フォン ミン チュン (マレーシア出身)

マレーシアから沖縄高専へ留学して、本当に良かったと思います。困った時にはいつも周囲の人が手伝ってくれたり、優しくしてくれたりして、沖縄の穏やかな人情に心が温められました。自然が好きで私は、毎朝、青く輝く海を眺めながら通学することに幸せを感じています。時間がある時には、地元の伝統料理店を巡り、沖縄特有の食文化にも触れることができました。また、国際交流委員会WSB(World Students Brige)の活動を通じて異文化交流を行い、新たな視野と友情を育んでいます。生物資源工学科では、沖縄の環境に関する学習やさまざまな実験を体験できて、とても面白かったです。来年度は県外へ進学するつもりですが、沖縄を離れることに少し寂しさを感じています。

「笑顔があふれるWSBライフ」

メディア情報工学科5年 サリム ナナパト (タイ出身)

沖縄高専での留学生活は、WSBの活動があるからこそもっと楽しくなりました！タイの水かけ祭り・ソクランをみんなで楽しんだり、料理対決イベント「Master Chef」で個性あふれる料理を披露したりと、自由で笑いの絶えない時間がたくさんありました。七夕イベントでは願い事を書いた短冊や飾りを一緒に作って、日本の文化も体験できました。国籍を超えて仲良くなれた仲間との思い出は、一生忘れられません！



国際交流委員会WSB (World Students Bridge)

留学生を中心とした国際交流委員会WSB (World Students Bridge)では、1年を通して様々な活動を行っています。

令和6年度活動例

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| 4月 新入生歓迎会 | 10月 那覇大綱引き、異文化体験 |
| 5月 那覇ハーリー | 11月 首里城祭 |
| 6月 平和学習・自然学習 令和6年度平和学習 平和学習発表 | 12月 クリスマスパティー |
| 7月 日本語弁論大会、七夕 | 1月 お正月餅つき大会 |
| 8月 BBQ、カレーパーティー | 2月 花見、北部遠足 |
| 9月 グローバル講座講師 (マレーシア・タイ) | |



餅つき大会



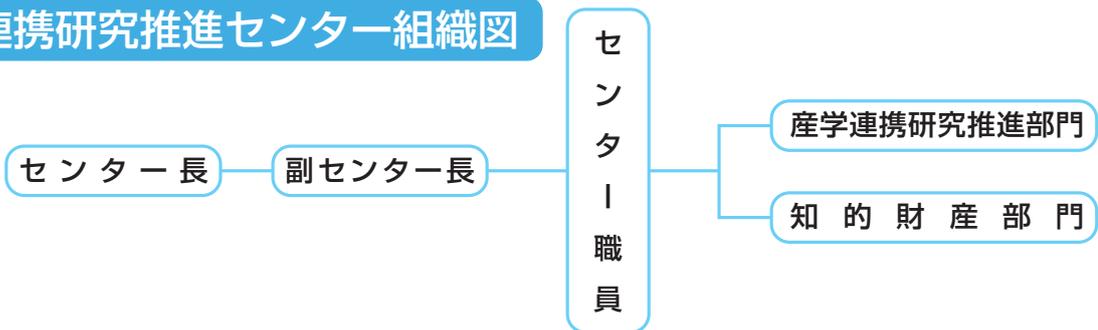
WSB ルームでの団らん

地域連携研究推進センター

地域連携研究推進センターは、本校における教育研究の進展に寄与し、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより、地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域文化交流及び地域課題の解決支援に資することを目的としています。

当センターには、センター業務を円滑に遂行するために「産学連携研究推進部門」、「知的財産部門」を設けており、機動的に活動できる組織となっています。

地域連携研究推進センター組織図



技術相談会

本校では、企業等における技術的な課題を解決するため、本校の有する研究成果や技術的知識を広く活用した技術相談会を実施しています。相談申込者に対する技術的な課題解決に向けての支援及び相互の研究開発等の活性化を図るための技術指導・助言や情報交換を行っており、相談申込者と本校の共同研究に発展するものもあります。これまで、多数の皆様が技術相談会にご参加いただき、相談申込者と本校教職員の間で活発な意見交換を行いました。今後も本校は相談申込者が抱える様々な技術課題に関して、連携により課題が解決されるよう取り組んでまいります。

定期の技術相談会としまして、毎月沖縄産業支援センター（那覇市）において、2社を対象として個別に開催しています。また、相談申込者の希望日に合わせた、随時の技術相談会も受け付けていますので、技術相談会へのお申込みをご希望の際は、総務課研究連携企画係までご連絡ください。

技術相談受入件数（過去3年度）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
37	35	38



沖縄産業支援センターでの定期技術相談会



企業を訪問しての技術相談会

産業界との連携

平成16年4月に沖縄県内の経済・産業界を中心として、沖縄高専の教育・研究活動を側面から支援するとともに、産学間の共同研究を推進し、産業振興に寄与することを目的に「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」が設置されました。企業等を対象とした研修事業の実施や技術交流・技術相談等の交流事業などの活動が行われています。現在、県内外の133の企業団体及び19の個人会員で組織しています。

《令和6年度 産学連携協力会の主な活動内容》

- ・ 産学連携協力会理事会、総会、懇親会の開催
- ・ 沖縄高専フォーラムの共催
- ・ 課外活動団体活動費の支援
- ・ 地域連携研究推進センター報製作費の支援
- ・ 沖縄の産業まつりへの出展費の支援
- ・ 沖縄高専主催「業界研究会」参加申込企業への参加費の支援
- ・ 沖縄高専同窓会との連携による再就職支援体制の整備
- ・ みらい創造基金への支援



沖縄高専産学連携協力会総会の様子

キャリア教育センター

キャリア教育センターは、本校学生のキャリア形成と学生及び卒業生の進学・就職活動を支援することを目的としています。具体的には、単に進路決定のための情報提供や支援のみならず、学生が自己分析・自己理解を進め、インターンシップなどを通して社会やさまざまな職業を理解していくことで、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養う教育を行います。

沖縄県の新規学卒者等総合就職支援事業により、令和4年4月から就活コーディネーターがキャリア教育センター室に常駐し、学生の就職等に関する個別相談に対応しています（週5日：10：00～19：00）。



キャリア教育センター室の様子



業界研究会の歩き方(オンライン実施によるキャリア講演会・セミナー)の様子

学生相談・支援室

学生相談・支援室は、学生権利擁護の観点から、学生、保護者、教職員から寄せられる相談に応じ、安心して相談できる環境を提供します。臨床心理士の資格をもつカウンセラー（非常勤）が、授業期間中の平日は毎日、相談員として相談に応じ、学生寮においても週5日相談員を配置しています。令和6年度は、週2日ソーシャルワーカーが勤務しており、連携した支援体制づくりを行っています。相談の結果、学生が自分の問題を自分で解決し、学生生活を改善していくことができるように、学内外の連携を強化し、必要な支援の調整にあたります。

コロナ禍における対応を経験値として、オンラインでの相談もできるようになっています。



カウンセリングルームの様子



サポートルームの様子

情報処理センター

本校では、教室や実験室だけでなく、学生寮も含め建物内のほとんどの場所でネットワークが使える環境を整えております。情報処理センターではサーバやネットワーク、共有ファイルシステム、無線 LAN システムなどの管理、運用を行っています。また、学生が活用しているノートパソコンにトラブルが発生した際の技術相談も行っています。



新生 PC 設定会の様子

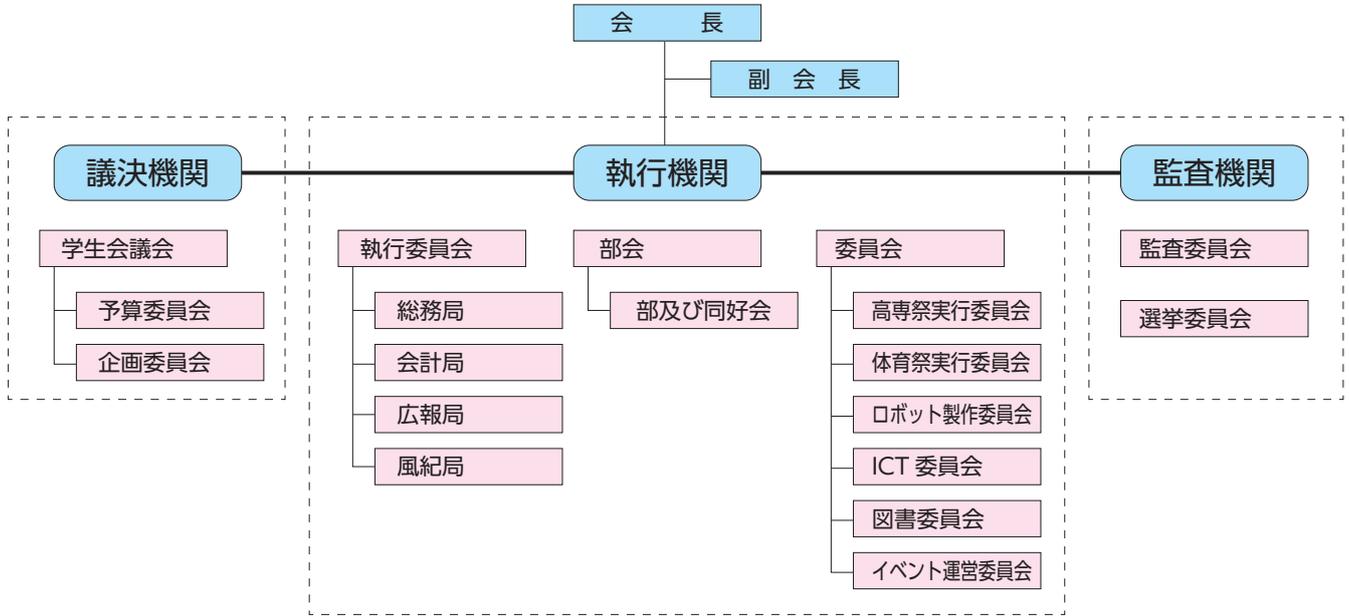


学生への技術相談の様子

学生会

<学生会組織>

本校では、「学校の指導のもとに、学生の自主的な活動を通して、会員それぞれの人間形成を助長し、高等専門教育の目的達成に資すること」を目的として、学生全員で構成する学生会を設置しております。学生会の活動には、会長をはじめとする執行委員会の活動及びそれぞれの目的を持った部会、各種委員会の活動があります。



体育祭



高専祭

九州沖縄地区高専体育大会主要実績

開催年度	種目	成績
令和5年度	水泳競技 男子100m背泳ぎ	2位 (全国大会4位)
	水泳競技 男子200m個人メドレー	3位
令和6年度	水泳競技 男子50m自由形	2位 (全国大会4位)
	水泳競技 男子100m背泳ぎ	2位
	水泳競技 男子200m背泳ぎ	3位
	テニス競技 女子シングルス	2位
	テニス競技 女子団体戦	2位
	テニス競技 男子団体戦	3位

コンテスト関係主要実績

最新情報は
こちらを
ご覧ください→



<ロボットコンテスト(九州沖縄地区大会)>

開催年度	チーム名	成績
令和4年度	沖縄高専 A チーム	特別賞
	沖縄高専 B チーム	デザイン賞(全国大会エキシビション参加)
令和5年度	沖縄高専 A チーム	技術賞(全国大会アイデア賞受賞)
令和6年度	沖縄高専 A チーム	全国大会エキシビション招待

<プログラミングコンテスト>

開催年度	部 門	成績
令和4年度	自由部門、課題部門	敢闘賞
令和5年度	自由部門、課題部門	敢闘賞
令和6年度	自由部門、課題部門	特別賞、敢闘賞

<その他のコンテスト>

開催年度	大会名	成績
令和4年度	高専ワイヤレスIoTコンテスト2022(電波利用システム利活用部門)	海洋保全高専連携大賞、ビーチドローンズ大賞
	第1回高専 GIRLS SDGs × Technology Contest (高専 GCON2022)	文部科学大臣賞
	2022 年度ロボットアイデア甲子園全国大会	不二越賞
令和5年度	高専ワイヤレステックコンテスト2023(ワイヤレス利活用部門)	ワイヤレスフューチャー賞、ミライト・ワン賞 ローム賞、さくらインターネット賞
	テクノ愛コンテスト 2023	1位(高校生の部) 1位(大学生の部)
	第14回 Software Challenge Award 2023	特別賞(1位相当)
令和6年度	ディーブラーニングコンテスト(DCON2024)	農林水産大臣賞、NECソリューションイノベータ賞、トヨタ自動車賞
	パソコン甲子園(モバイル部門)	グランプリ
	九州沖縄地区英語プレゼンテーションコンテスト(暗唱部門)	1位
	第1回みどり戦略学生チャレンジ 全国大会(大学・専門学校の部)	農林水産大臣賞(1位)



コンテスト出場

ICT委員会の活躍

■「パソコン甲子園2024」グランプリ「第35回高専プロコン」敢闘賞を受賞！

会津大学で開催された「パソコン甲子園2024」のモバイル部門において、本校のICT委員会に所属する3名の学生が出場し、グランプリを受賞しました。パソコン甲子園は、コンピュータ理工学が専門の会津大学等が主催する、高校生・高等専門学校生のためのICT分野の全国大会です。出場した学生は「いきいき肺活」というアプリケーションを開発しました。

「いきいき肺活」はピロピロ笛とスパイロメータをコントローラーとしたゲームで、ゲームをプレイすることによって楽しく呼吸トレーニングができます。このアプリは医療や介護施設での使用を想定し、1人で鍛えられるのももちろん、2人で競い合うなど、皆で集まり楽しくトレーニングできるゲームを提供します。

グランプリを受賞した学生は授賞式にて「受賞して、とても驚きました。コンテストを受けるにあたって、助けていただきました多くの関係者の皆さん、本当にありがとうございました。アプリとUIに改善の余地が大いにあるので、より完成度を上げ、喘息を持っている方々にも使っていただきながら、改善をしていきたいと思います。」と語りました。

また、全国高等専門学校プログラミングコンテスト第35回 奈良大会（高専プロコン）に、課題部門1チーム、自由部門2チーム、競技部門1チームが応募し、審査の結果、自由部門2チーム、競技部門1チームの計3チーム（学生11名）が予選を通過して本選に出場しました。本選では、全国の高専から出場した課題部門20チーム、自由部門20チームが、コンピュータソフトウェア作品におけるアイデアと実現力を競いました。

今回の大会では4月から作品のアイデア出し・企画書作成、7月から開発を始めました。夏季休暇の開発では定期的にチームで会議を行いチームの意見をまとめて開発に取り組みました。今年度もスケジュールの管理が課題であり、開発が遅れ、サーバー側アプリケーションとクライアント側アプリケーションの連携がうまく出来ないチームがありました。開発スケジュールの管理は長期的な課題として取り組む必要があります。大会の結果は、自由部門は2チーム、競技部門ともに『敢闘賞』でした。

ICT委員会は2004年度の沖縄高専開校以来さまざまなコンテストに参加しております。高専プロコンへは2024年度時点で15回とほぼ毎年参加しており、その中で多数の賞を頂いております。パソコン甲子園では2022年度に開催された20周年式典でモバイル部門本選出場最多校として功労賞を頂きました。その他のコンテストでも多くの賞を受賞しており、今後も益々の活躍が期待されます。



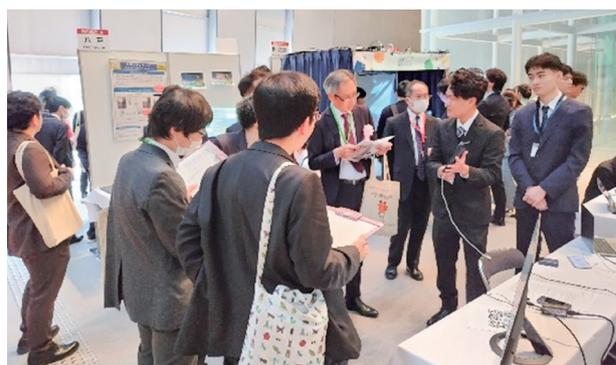
パソコン甲子園グランプリ受賞の様子



パソコン甲子園グランプリ受賞を校長に報告



高専プロコンでの集合写真



高専プロコンでの審査員への説明

女性教員の活躍

独立行政法人国立高等専門学校機構では、「男女共同参画社会基本法」（平成11年6月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画推進体制を構築しています。（男女共同参画担当理事を長として、男女共同参画推進室を置いています。）

沖縄工業高等専門学校は、機構の下「男女共同参画推進委員会」を設置し、男女共同参画の意識啓発やワーク・ライフ・バランスのための環境整備等を推進しています。本校においても、数多くの女性教員が日々教育・研究分野等で活躍しています。

生物資源工学科 特命助教 儀武 菜美子



略歴紹介

皆さん、こんにちは。生物資源工学科の儀武菜美子と申します。出身は沖縄県の金武町で、沖縄高専の卒業生でもあります。高専に進学した理由は、「宇宙飛行士になりたい」、「地球に貢献したい」といった理由からでした（高専に行けば宇宙飛行士になれるかもよ？と中学生の私に言ったのは母親だった気がします）。

私たちの世代は小学生の頃から環境問題について学ぶ機会が多く、「なぜ大人は石油が枯渇すると分かっているのに車に乗るのだろう」、「地球のためと言いながら結局は人のためじゃないか」—そんな風に、小さな怒りと使命感を抱いていました。

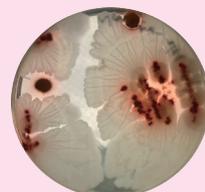
ドキドキワクワクで入学した沖縄高専。先生方はみんな博士号を持っている研究者で、目をキラキラさせながら研究の話が止まらない先生もいるし、学生には趣味で席替えのプログラムを作る人もいるし、ルービックキューブの世界チャンピオンもいるし、聖飢魔IIのコピーバンドをやっている人もいるし、変なひとだらけの沖縄高専。私自身、変わっていると云われることが多かったのですが、学生・教員の多様性とそれを受け入れる土壌がある沖縄高専はとても心地良い環境でした。

それでも、勉強することが苦手だった私は、1年生のGW明けには「目がキラキラしてないよ」と先生に言われるほど、高専生活に意義を見出すことができなくなって、日々のレポートや課題、試験に追われるやさぐれた高専生でした。それでも、印象的な講義や実験、頑張って仕上げたレポート課題は今も鮮明です。それらは私の哲学を大きく成長させたから記憶に残っているのでしょうか。ひたすら吸収したり、うまく吸収できなかったり、そんな高専生活の日々すべてが今の私につながっています。私が覚醒(?)したのは5年生、卒業研究がきっかけです。もう帰りなさいと先生に言われるほど卒業研究にのめり込み、土日も長期休みも高専に通っていました。単純に、楽しかったんです。世界中の誰も知らないことを、私の手を動かすことで明らかになっていくってことが、先生にその結果を報告すると、「面白いね！」って言ってくれることが。それまで就職希望でしたが進学に進路変更して、長岡技術科学大学へ進み修士課程まで修了しました。

その時に就職活動をして、紆余曲折ありつつもWDBエウレカ株式会社という正規雇用型の研究員の派遣会社に就職しました。その後、プロジェクトが終わるまで2年間ほど派遣先の広島県呉市で働き、多くのことを学ばせてもらいました。アカデミック研究と企業研究との違いや、そのスピード感、コスト試算をしながらやりたい研究計画を上司にアピールしていく大切さなど、高専や大学では学べない実践的な知識ばかりでした。広島はすごくいいところで、このまま住みたいと思うほどだったのですが（すっかり広島弁も話せるようになりました）、大学の先生からの勧めもあり、長岡技術科学大学に戻って博士号を取得しました。それから同大学でポスドクをして、タイミングと縁が重なって沖縄高専の特命助教になりました。

今は、「微生物の力で環境問題を解決する」というテーマで研究を進めています。現在、力を入れているのは微生物によるポリマー（プラスチックやゴムなど）分解です。このままでは2050年には海のプラスチック量が魚の存在量を超えるという報告例もあるほど、生分解能を持たないポリマーによる環境汚染とその影響は計り知れません。これら課題を解決するために、既存ポリマーの分解菌探索や生分解しやすいポリマー材料の開発に携わり、企業や大学、他高専との共同研究を行っています。私の研究が少しでも地球と人のためになればと思います。励む日々です。

私が高専生の頃、目をキラキラさせて研究の話をする先生方から多くのことを学んだように、私が私らしく研究に励むことが学生にとってなんらかの学びになれば嬉しいなと思います。その学びが「こんな大人にはなりたくない！」という反面教師でもいいのです。自分の意思で、自分の哲学で、自分の人生を生きることが大切だと思うので。学ぶことで学生自身の意思を引き出すような、そんな講義を心がけています。教育者としては今年で2年目、至らぬ点も多いですが学生と共に日々成長していけたらと思っています。



紅麹菌



土壌微生物

美ら海から学ぶ未来のリーダー養成塾

最新情報は
こちらを
ご覧ください→



沖縄高専は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が公募する次世代科学技術チャレンジプログラム（STELLAプログラム）に沖縄県内で初めて採択され、令和5年度から「美ら海から学ぶ未来のリーダー養成塾」を開講しています。

本養成塾では、沖縄の豊かな海を愛し、海洋生物、海洋環境、AI、水中ドローンなどに興味がある沖縄県内の小中学生を対象に科学技術に関する講義・研究指導を行っており、様々な事象を関連付けられる研究能力、自らの得意分野で解決策を提案できる高度専門的能力を養い、沖縄の将来を担い科学技術イノベーションを牽引する次世代の傑出した人材を育成しています。

沖縄県内の小学5年生～中学3年生（離島含む）

選抜

一年目



成果発表会

第1段階・40名

講義を通し、自然環境やAI、ロボット等幅広い知識に対し興味関心を持つことのできる人材を育成する。

選抜

二年目以降



ロボコン生による研究指導

第2段階・10名

講義やその他自身が持つ疑問を高専の教員、学生、学外機関と研究し、対外的な発表や社会実装化を目指す。

<主な実績>

サイエンスカンファレンス2024 研究発表大賞 受賞、沖縄県児童・生徒科学賞作品展 優秀賞 受賞
Green Blue Education Forum 京都府知事賞 受賞 他、多数受賞

沖縄高専みらい創造基金

最新情報は
こちらを
ご覧ください→



沖縄高専では、教育研究、地域貢献活動、国際交流活動の推進、修学のための支援並びに教育研究環境の整備充実に資することを目的に、令和6年度に「沖縄高専みらい創造基金」を創設しました。

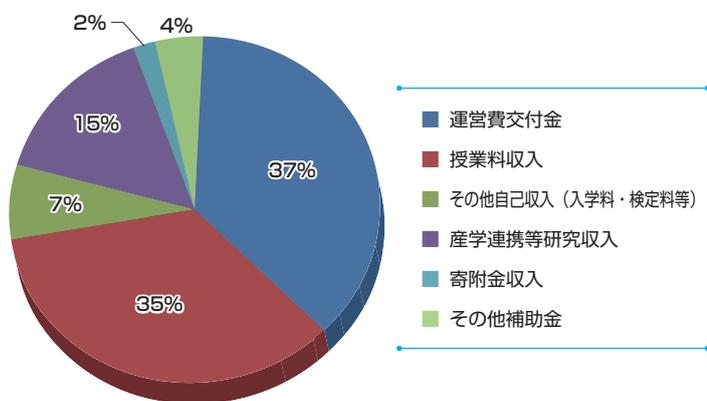
本基金では、みなさまからのご寄附により次の事業を行っています。

- ① 教育研究支援事業
- ② 修学支援事業
- ③ 国際連携支援事業
- ④ 産学連携・地域貢献支援事業
- ⑤ 施設・環境整備支援事業
- ⑥ その他目的達成のために校長が必要と認めた事業

収支報告・外部資金

収入・支出決算額（令和5年度）

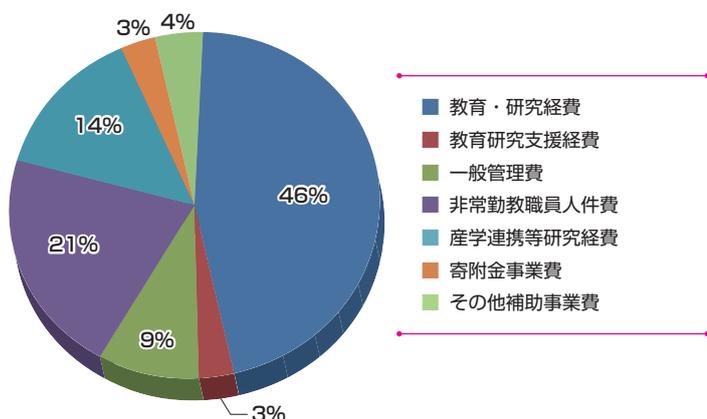
収入



収入	金額 (単位：千円)
運営費交付金	218,435
授業料収入	203,545
その他自己収入（入学科・検定料等）	39,075
産学連携等研究収入	86,418
寄附金収入	14,200
その他補助金	22,914
計	584,587

※常勤人件費については本部事務局で計上しているため、運営費交付金に含めず

支出



支出	金額 (単位：千円)
教育・研究経費	255,839
教育研究支援経費	18,799
一般管理費	49,533
非常勤教職員人件費	115,260
産学連携等研究経費	75,020
寄附金事業費	16,394
その他補助事業費	22,914
計	553,759

外部資金受入件数・金額

令和7年5月1日現在

年度／研究費名	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
共同研究	19	8,302	12	6,694	11	5,437
受託研究	10	46,430	8	32,772	7	32,089
科学研究費	33	28,844	31	28,590	27	21,125
寄附金	8	4,514	13	11,794	20	15,218
助成金	7	15,246	5	5,720	7	11,730
受託事業	1	11,442	2	23,001	2	23,251
受託試験	0	0	1	500	0	0
合計	78	114,778	72	109,071	79	108,850

建物配置図・土地・建物

創造・実践棟

- 機械システム工学科
- 情報通信システム工学科
- メディア情報工学科
- 生物資源工学科
- 基盤教育科
- 専攻科

メディア棟

- 図書館
- IT教室・CALL教室
- 事務部
- 視聴覚ホール
- レストラン

体育館

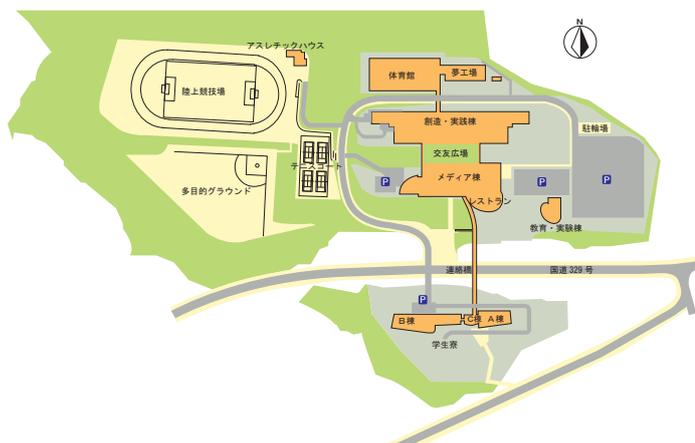
- アリーナ
- 格技場
- トレーニング場
- 伝統芸能道場
- プール

土地

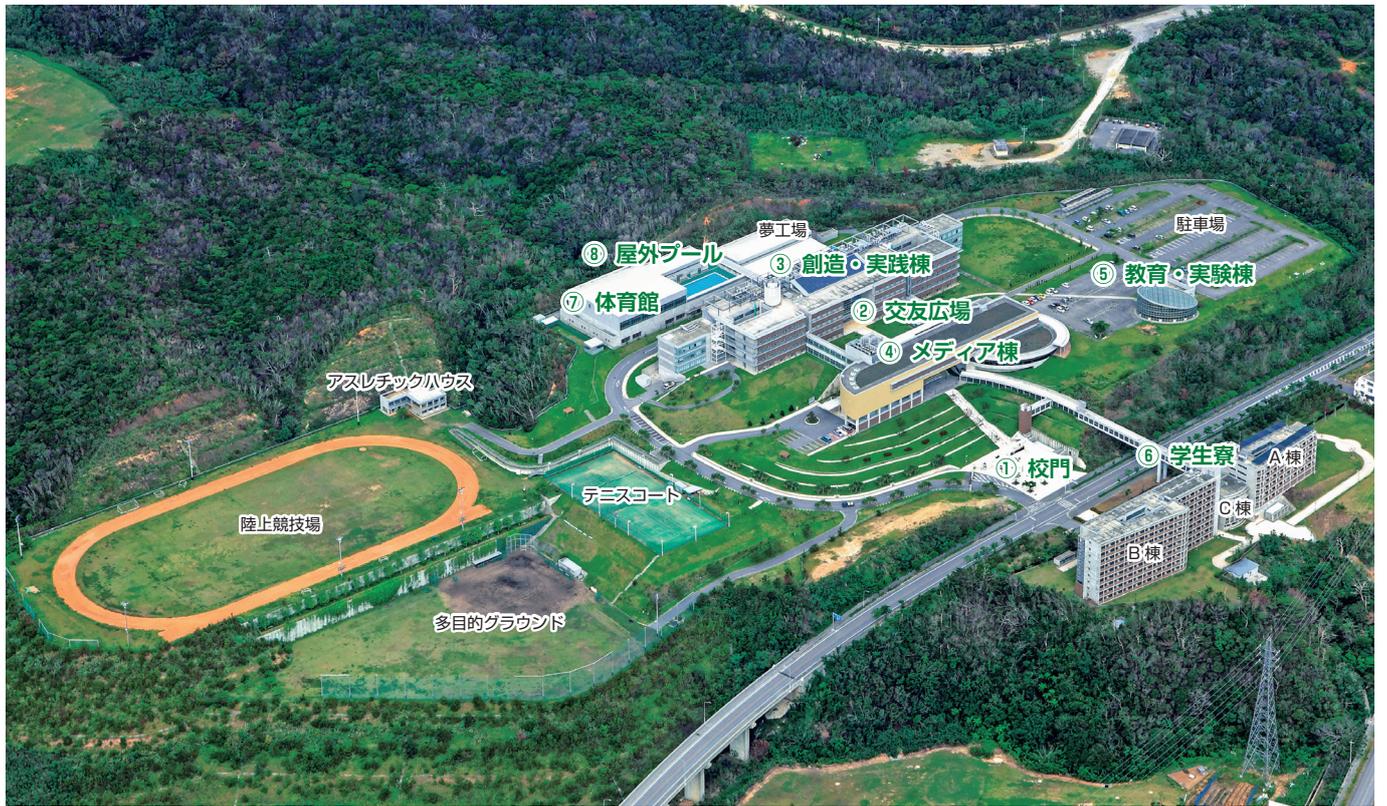
総面積	使用区分			
	校舎等	屋外運動場	学生寮	その他
156,056㎡	49,100㎡	36,100㎡	11,600㎡	59,256㎡

建物

区分	名称	構造	延面積
校舎等施設	創造・実践棟	R4	14,009㎡
	メディア棟	R4	5,023㎡
	夢工場	S2	665㎡
	教育・実験棟	S1	498㎡
体育施設	体育館	RS2	2,707㎡
	アスレチックハウス	R2	256㎡
学生寮施設	学生寮	R9	11,105㎡
合計			34,263㎡



国道329号側から眺める建物外観



キャンパス全景



① 校門



② 交友広場



③ 創造・実践棟



④ メディア棟



⑤ 教育・実験棟



⑥ 学生寮



⑦ 体育館



⑧ 屋外プール



沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸
作曲 上江洲安彦
編曲 上江洲安彦

深き緑の山原の
丘に聳えし学び舎に
夢を求めて集いし我ら
友とともに、師とともに
技術の地平を切り拓く
ああ、沖縄高専
光り輝け

辺野古の海を見晴るかす
丘に聳えし学び舎に
大志抱きて集いし我ら
友とともに、師とともに
未知なる海原漕ぎ進む
ああ、沖縄高専
光り輝け

日本の最南、美ら島の
丘に聳えし学び舎に
世界目指して集いし我ら
友とともに、師とともに
パイオニアの精神連綿と
ああ、沖縄高専
光り輝け

沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸
作曲 上江洲安彦
編曲 上江洲安彦

Allegretto
♩ = 116

1 2 3 4 5
ふ か き - みどりの や ん ばる の おか
へ の こ - のうみを み は るかす おか
に ほ ん - のみなみ ちゅら しまの おか

6 7 8 9 10
に - そびえし ま な び や に ゆめを - もとめ
に - そびえし ま な び や に たいし - いだき
に - そびえし ま な び や に せかい - めざし

11 12 13 14
て つどい しわれら - とも - と - ともに
て つどい しわれら - とも - と - ともに
て つどい しわれら - とも - と - ともに

15 16 17 18
しと ともに ぎじゅ つ の - ちへいを きりひらくあ
しと ともに みち なる - うなばら こぎすすむあ
しと ともに パイ オニアの - ここ - ろ れんめんとあ

19 20 21 22 23
あ お き なわ こ - せ ん ひ か り - が が や け
あ お き なわ こ - せ ん ひ か り - が が や け
あ お き なわ こ - せ ん ひ か り - が が や け



位置及び交通機関

県内から

屋慶名バスターミナル発
名護バスターミナル発
(系統番号 77)

共に
↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩 5分

バス路線の経由地詳細は、
<http://okinawabus.com/> を参照願います。

自動車の場合は、沖縄自動車道「宜野座 I.C.」
を出て国道 329 号を北に約 10km 左側。
(国道上の歩道橋が目印です。)

県外から

(空港からの所要時間：約 2 時間)

●那覇 (なは) 空港国内線ターミナル到着
2 番バス停から下記①または②のいずれか

①(系統番号 111) 高速バス
「名護(なご)バスターミナル」
行きに乗車

↓
「宜野座 I. C.」下車
(ぎのぎインターチェンジ)
↓
徒歩にて路線バス乗り場まで移動
「中央公民館前」から
(系統番号 77)
「名護バスターミナル」
行きに乗車

↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩 5分

②(系統番号 117) 高速バス
「オリオンもとぶリゾート」
行きに乗車

↓
「世富慶(よふけ)」下車
↓
歩道橋を渡り
道路反対側より
(系統番号 77)
「屋慶名バスターミナル」
行きに乗車

↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩 5分



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地
E-mail: ssoumu@okinawa-ct.ac.jp

TEL (0980) 55-4003 [総務課総務係]
<http://www.okinawa-ct.ac.jp>

